

大阪湾再生行動計画（第二期） 令和4年度の取り組み成果

令和5年3月

大阪湾再生推進会議

目次

I	大阪湾再生行動計画（第二期）について	1
1.	大阪湾再生の理念・意義	1
(1)	理念	1
(2)	意義	1
2.	経緯	2
3.	第二期計画について	3
(1)	全体目標	3
(2)	目標要素	3
(3)	施策	3
(4)	評価指標	3
(5)	目標要素・施策・評価指標の関係	4
(6)	目標達成状況の評価	4
(7)	アピールポイント	4
(8)	計画期間	4
II	令和4年度の取り組み成果	5
1.	目標達成状況	5
(1)	美しい「魚庭（なにわ）の海」	5
1)	取り組みの状況	7
2)	評価結果	28
(2)	親しみやすい「魚庭（なにわ）の海」	40
1)	取り組みの状況	41
2)	評価結果	47
(3)	豊かな「魚庭（なにわ）の海」	49
1)	取り組みの状況	50
2)	評価結果	58
2.	令和4年度の重点的な取り組みの成果	66
(1)	夏季底層DO改善対策強化等	66
(2)	学校教育等との連携	66
(3)	新たな主体への働きかけ	67
(4)	その他	68
	アピールポイントでの活動状況	69
(1)	アピールポイントの設定状況	69
(2)	アピールポイント毎の状況	70

I 大阪湾再生行動計画（第二期）について

1. 大阪湾再生の理念・意義

(1) 理念

大阪湾の環境の改善（多様な生物の生息・生育、人と海との関わりの増大）に向けて、多様な主体の連携・参画（空間ネットワーク及び人的ネットワークの充実・強化）により、森・川・里・都市・海等の取り組みの輪を広げ、効率的・効果的な取り組みの推進を図り、大阪湾の再生とともに新しい大阪湾の創出を目指す。

(2) 意義

1) 多様な生物の生息・生育

- ・生物多様性を確保する
- ・生物の生産性を確保する

2) 人と海との関わりの増大

- ・体験学習等の機会創出により豊かな人材を育成する
- ・水に親しむ機会創出により生活の質を高める
- ・大阪湾の文化を観光資源につなげる

3) 空間ネットワーク及び人的ネットワークの充実・強化

- ・空間（森・川・里・都市・海等）ネットワークの充実・強化
- ・人的（多様な主体、各世代のつながり）ネットワークの充実・強化

2. 経緯

- ◆平成 13 年 12 月：都市再生プロジェクトに「海の再生」を位置付け（都市再生プロジェクト（三次決定））
 - ・平成 15 年 6 月 26 日：都市再生本部会合において、「『大阪湾再生推進会議（仮称）』を設立して大阪湾再生に取り組む予定」とされた。
 - ・平成 15 年 7 月 28 日：関係省庁及び関係地方公共団体等*が「大阪湾再生推進会議」を設置
- ◆平成 16 年 3 月 26 日：「大阪湾再生行動計画」を策定
 - ・平成 16 年度：毎年度の実施状況についてフォローアップを実施
 - ・平成 19 年度：計画策定後 3 年間の取り組み状況、目標の達成状況について「中間評価」を実施
 - ・平成 20 年度：中間評価結果を基に、「大阪湾再生行動計画（第 1 回改訂版）」の策定
 - ・平成 22 年度：計画策定後 6 年間の取り組み状況、目標の達成状況について「中間評価」を実施
 - ・平成 25 年度：計画策定後 10 年間の取り組み状況、目標の達成状況について「最終評価」を実施
- ◆平成 26 年 5 月：「大阪湾再生行動計画（第二期）」を策定
 - ・平成 30 年度：第二期計画策定後 4 年間の取り組み状況、目標の達成状況について「中間評価」を実施
 - ・令和元年 5 月：「大阪湾再生行動計画（第二期）」を一部修正
 - ・令和 3 年度：第二期計画策定後 7 年間の取り組み状況、目標の達成状況について「中間評価」を実施
 - ・令和 3 年度：「大阪湾再生行動計画（第二期）」を一部修正

注) 大阪湾再生推進会議：内閣官房 地域活性化統合事務局（旧：内閣官房都市再生本部事務局）、国土交通省、農林水産省、経済産業省、環境省、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市、一般財団法人 関西観光本部、大阪湾広域臨海環境整備センターで構成（注：経済産業省は平成 17 年 3 月、堺市は平成 18 年 3 月、大阪湾広域臨海整備センターは平成 26 年 5 月から参画）

3. 第二期計画について

(1) 全体目標

森・川・里・都市・海等のネットワークを通じて、美しく親しみやすい豊かな「魚庭（なにわ）の海」を回復し、市民が誇りうる「大阪湾」を創出する

(2) 目標要素

全体目標の達成に向け、多様な主体の参画や協働を促し、各方面での取り組みをより強力に推進するため、全体目標を更に分かりやすく身近で具体的なイメージに展開し、多様な主体がそれらのイメージを共有することが必要となる。

したがって、以下の通り、全体目標の要素を抽出・具体化した「目標要素」を設定する。

美しい「魚庭（なにわ）の海」

- ・水辺を快適に散策できる海（湾奥部）
- ・水に快適に触れ合うことができる海（湾口部、湾央部）

親しみやすい「魚庭（なにわ）の海」

- ・水辺に容易に近づける海
- ・魅力的な親水施設や多彩なイベントがある海
- ・市民や企業が積極的に関わる海

豊かな「魚庭（なにわ）の海」

- ・多様な生物が生息し、豊富な海産物の恵みを得られる海

(3) 施策

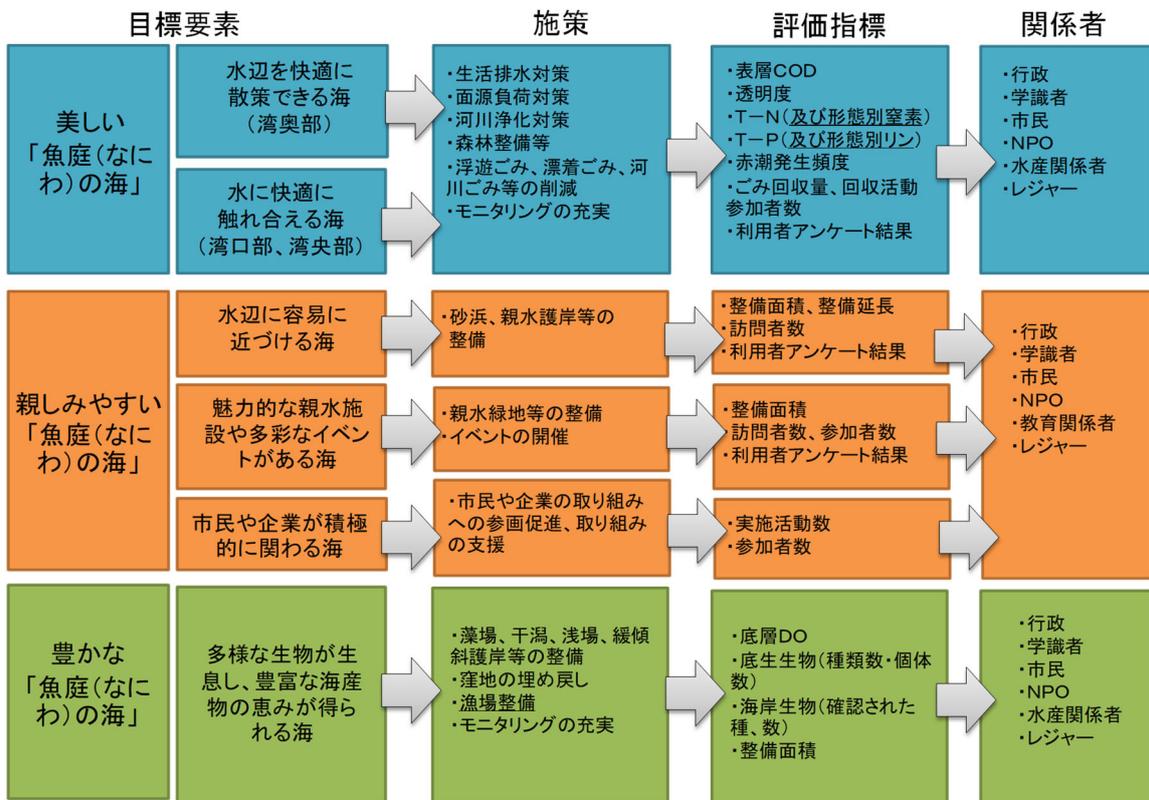
目標要素を達成するための施策を実施する。

(4) 評価指標

目標要素について、定量的な水環境の改善状況や施策の進捗状況を把握・評価するものとして、「評価指標」を設定する。

(5) 目標要素・施策・評価指標の関係

目標要素・施策・評価指標の関係については、下記のとおりである。



※下線は第一期計画から追加された施策、評価指標

※大阪湾再生行動計画(第二期)に記載している「下層DO」は「底層DO」として環境基準化がなされたため、名称を変更する。

(6) 目標達成状況の評価

目標の達成状況は、水質・生物等の環境の状況、取り組みの実施状況等の地域特性を踏まえ、評価指標の値の経年的な増減等で評価を行う。また、評価手法は評価結果を受けて適宜見直しを行う等、順応的に進捗状況を管理することとする。

(7) アピールポイント

大阪湾再生の取り組みを継続的に進めるためには、多くの市民の参画が不可欠となる。市民の参画を得ていくためには、まず大阪湾や大阪湾につながる森や川へ行き、親しみの持てる身近な場所として感じていただきながら、より良い環境にしていく意識を育むことにより、取り組みへの理解・関心につなげていくことが重要となる。

したがって、多くの人が訪れ、見て・遊んで・食べて・学ぶことにより、大阪湾や大阪湾につながる森や川についての理解を深められる場所を「アピールポイント」として設定し、情報を発信する。

(8) 計画期間

平成26年度から令和5年度までの10年間

Ⅱ 令和4年度の取り組み成果

1. 目標達成状況

(1) 美しい「魚庭（なにわ）の海」

<取り組みの状況>

▶ 生活排水対策

汚濁負荷量（COD、T-N、T-P）の総量削減計画の推進・実施/負荷量把握のために調査等を実施/下水道の普及促進（大和川下流流域、南大阪湾岸流域、淡路地域等）により、下水道普及率は95.7%に増加（令和3年度）/高度処理施設の整備及び既存処理場の高度処理化により、高度処理普及率は58.8%に増加（令和3年度）/合流式下水道の改善事業を実施/下水処理水の有効活用のための整備の実施/広報活動、体験イベントの開催や奨励、制度展開等による、未水洗家庭の水洗化の促進/施設見学会、出前トークやモニター制度等の実施による下水道事業のPR/農業集落排水施設の整備・機能強化の実施により、農業集落排水施設整備率は97.5%に増加（令和3年度）/浄化槽設置を行う個人、市町村に対しての補助・交付を実施/流域住民参加の負荷削減対策（大和川水質改善強化月間）等を実施

▶ 面源負荷対策

雨水の有効利用や流出抑制を目指し、公園や学校校庭に雨水貯留施設の整備を実施/助成制度により一般家庭等を対象とした雨水貯留タンクの普及を促進/農業濁水発生抑制・流出防止のためのチラシ配布や啓発活動等を実施

▶ 河川浄化対策

河川浄化設備の維持管理や効率的な運用/河川浄化施設の整備及び維持管理、モニタリング調査等を実施/浄化浚渫・覆土工を実施（木浜内湖、平野川）

▶ 森林整備等

行政による森林整備事業・治山事業、及び市民、NPO、企業等の参画・連携による森林整備等を実施/公共工事での間伐材等利用を推進

▶ 浮遊ごみ、漂着ごみ、河川ごみ等の削減

河川清掃活動等による河川ごみ対策（淀川水系、大和川水系等）を実施/市民・企業等との連携による海岸美化活動（成ヶ島クリーン作戦、海岸美化活動、アドプト・シーサイドプログラムなど）を実施/廃船・廃棄物・浮遊ごみ等の撤去の実施

▶ モニタリングの充実

大阪湾再生水質一斉調査や各種定点水質・底質等調査のモニタリング等を実施/堺浜自然再生ふれあいビーチ、廃棄物最終処分場周辺等事業実施箇所等における水質等調査の実施/市民との協働による感覚的な水質指標（ごみの量、透視度、川底の感触、水の臭い等）の調査を実施/ホームページや発表会等によるモニタリング結果の情報発信を実施

▶ その他

神崎川、古川において浄化浚渫を実施/調査結果にもとづく汚染要因の検討、浄化対策方針の検討、河川・港湾工事に伴う対策マニュアルの検討の完了と対策の推進

＜評価結果＞（水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用）

- 表層 COD については、湾奥部において、夏季に依然として快適な散策・展望の目安となる 5mg/L を超える海域がみられる。
- 透明度については、夏季冬季ともに湾中央から湾奥にかけて 5m 以上の海域が拡大している。
- 窒素、燐については、特に湾中央～湾奥部付近において減少傾向がみられた。また、窒素については湾北西部付近で 0.2mg/L を下回る海域がみられた。
- 赤潮は行動計画策定以降、年間 11～29 件で推移し、第二期行動計画策定（平成 26 年度）以降は 12～25 件の範囲で推移しており、令和 3 年度には 16 件発生した。令和 3 年度では漁業被害が 2 件報告された。
- 令和元年度から令和 4 年度にかけて、新型コロナウイルス感染防止対策のため、多くのゴミ回収活動が中止となったが、令和 4 年度のごみ回収量は、586.4t（見込み）、清掃活動への参加者数は 14,272 人（見込み）であった。

＜取り組みの成果＞

- 湾奥部では、依然として快適な散策・展望に適さないとされている水質の場所があり、今後も取り組み推進が望まれる。一方で、窒素・燐は概ね減少傾向がみられる等、水質には変化がみられる。
- 湾口部や湾中央部では、水質が悪化する夏季においても、散策・展望の面からは概ね良好な水質を維持している。
- 引き続き、**マイクロプラスチックの削減に向けた検討**及び積極的なごみ回収活動の実施が望まれる。

黄色の網掛けは第二期計画の一部修正（R1.5）を踏まえて追加

1) 取り組みの状況

a. 生活排水対策

- 汚濁負荷量（COD、T-N、T-P）の総量削減（「b. 面源負荷対策」の取り組みとしても実施）
 - ・第9次総量削減方針の策定 [環境省]
 - ・第8次総量削減計画の実施（事業場に対する総量規制基準の遵守指導等）、第9次総量削減計画の策定。[京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県]

- 負荷削減のための計画策定・見直し、計画に基づく事業実施（「b. 面源負荷対策」の取り組みとしても実施）
 - ・「第8期琵琶湖に係る湖沼水質保全計画」に基づき、汚濁負荷削減対策を推進。[滋賀県、京都府]
 - ・環境の保全及び創造に関する施策の推進を図るため、奈良県環境基本条例に基づいた環境総合計画（令和3年度～）の点検、評価を実施。[奈良県]
 - ・「京都府水環境構想 2022～持続可能な汚水処理に向けて～（仮称）」を策定。[京都府]
 - ・大阪湾の水質環境基準を達成するために、下水道の整備に関する基本方針（目標負荷量の府県間配分算定）を策定するとともに、基本方針に基づき各府県が策定又は変更する流域別下水道整備総合計画の内容がこれに合致しているか評価を行うとともに、基本方針策定に向けた検討を実施。[近畿地方整備局]
 - ・流域別下水道整備総合計画（大阪湾・淀川流域別、大阪湾流域別、大和川流域別、木津川流域別）に基づく事業（下水道の整備促進、高度処理、面源汚濁負荷対策等）を継続実施。[京都府、大阪府、兵庫県、奈良県]
 - ・寝屋川流域水環境改善計画（令和4年版）を策定し、計画に基づく水環境の改善に向けた取り組み（下水道の整備や接続の促進、事業所排水対策の徹底、ごみ対策や水辺空間の利活用の促進等）を実施。[大阪府]
 - ・大和川水質改善計画に基づく水環境改善事業（水質改善啓発活動、環境学習の推進、河川愛護活動を推進、奈良県山の日・川の日・川の日の清掃活動）を継続実施。[近畿地方整備局、大阪府、奈良県]
 - ・菰川・菩提川において、大和川水質改善事業として河川水量を増加させる対策を実施。[奈良県]
 - ・将来的な下水道の施設計画（大和川上流・宇陀川流域下水道全体計画）に基づく事業（下水道の整備促進、高度処理等）を継続実施。[奈良県]
 - ・「大阪府生活排水処理計画整備指針」に沿った市町村における生活排水処理計画の策定・見直しの推進を働きかけ。[大阪府]
 - ・全県処理率のさらなる向上をめざし、生活排水処理施設の整備・更新及び統廃合の促進のため、市町へ自治振興資金による補助及び貸付を実施。[兵庫県]

- ・「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画に基づき、本市が目指す水環境の目標を策定し、それを実現するための施策（下水の高度処理、上流域と連携した取り組み等）を継続実施。[大阪市]
- ・望ましい環境像の実現に向け定めた基本方針に基づき、市の環境施策を網羅する総合的な計画（神戸市環境基本計画）に基づき、健全な水環境の確保のために、公共下水道の整備や合流式下水道の改善、下水処理の高度化を継続実施。[神戸市]

➤ 負荷量の把握のための調査等（「b. 面源負荷対策」の取り組みとしても実施）

- ・発生負荷量等算定調査により、総量削減指定地域における発生負荷量の把握に必要なデータを調査し、指定水域ごとに毎年の発生負荷量等を算定。[環境省、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県]
- ・合流式下水道吐口からの雨天時放流水質モニタリングを継続実施。[大阪府、奈良県、奈良県内関係市町村、京都市、大阪市、堺市、神戸市]
- ・琵琶湖（赤野井湾）における流入汚濁負荷の実態を把握するため、赤野井湾流域流出水対策推進計画に基づき、底質環境調査を実施。[滋賀県]
- ・大和川上流流域において、市町村別・支川別の発生及び排出汚濁負荷量を算出するためのシミュレーションの見直しを実施。[奈良県]



写真提供：奈良県

図 1 合流改善・吐口モニタリング

➤ 下水道の普及、高度処理*の推進

- ・市町の整備計画にあわせた流域幹線の整備、浄化センターの増設、老朽施設の改築更新を継続実施。[滋賀県（大津市など）]
- ・未整備地域における下水道の整備、普及促進を継続実施。[京都府、京都市、堺市、奈良県、兵庫県、神戸市]
- ・流域別下水道整備総合計画に基づき、水処理施設や幹線等の施設整備を行う。[大阪府、大阪市]
- ・高度処理の増設及び導入・改築を促進。[滋賀県（大津市など）、京都府、京都市、大阪府、大阪市、堺市、兵庫県、神戸市、奈良県]
- ・下水道普及率は平成 16 年度の 86.7%から令和 3 年度に 95.7%へ増加。[滋賀県、京都府、京都市、大阪府、堺市、兵庫県、神戸市、奈良県]
- ・高度処理普及率は平成 16 年度の 37.9%から令和 3 年度に 58.8%へ増加。[滋賀県、京都府、京都市、大阪府、堺市、兵庫県、神戸市、奈良県]

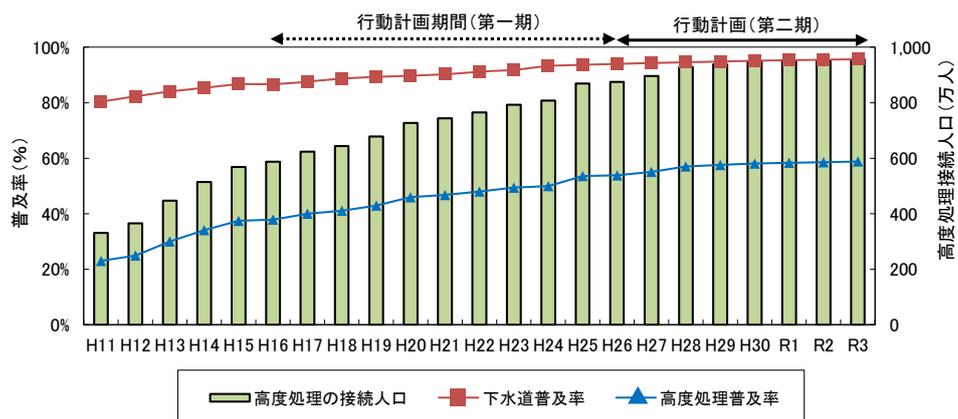
※高度処理施設：富栄養化防止のため、従来より窒素、燐をより多く除去できる設備を備えた下水処理施設



接続啓発活動

写真提供：奈良県

図 2 下水道の普及促進



※下水道普及率、高度処理普及率は大阪湾流域内人口に対する処理区域内人口の割合を示す。

図 3 下水道、高度処理の普及率、高度処理接続人口



西部処理場
写真提供：神戸市

図 4 高度処理施設



図 5 高度処理化等の主な取り組み施設（令和 4 年度）

➤ 合流式下水道の改善

- ・幹線の整備等による合流式下水道の改善を継続実施。[京都市]
- ・公共用水域のための汚濁負荷削減、公衆衛生上の安全確保のため改善事業を実施。
[大阪府、大阪市]



平成の太閤下水 (大阪市提供)

図 6 合流式下水道の改善の対策事例

➤ 水洗化の促進

- ・下水道施設での見学会、住民説明会、HPでのPRなどにより水洗化の促進に努める。[滋賀県、京都府、大阪府及び府内各市町村、堺市]
- ・勧奨を実施するとともに、助成金制度の周知を図る。[京都市、神戸市]
- ・大和川重点対策支川部会(関係市町村で構成)による検討を行う。[奈良県]

➤ 下水処理水の有効活用

- ・下水の高度処理水をせせらぎ水路[※]や池に送水するための送水管を整備し、修景用水[※]等に利用する。[大阪府及び府内各市町村、神戸市]
- ・道頓堀川・東横堀川の水質改善の取り組みとして、中浜下水処理場に導入した膜分離活性汚泥法（MBR）による超高度処理水を活用する。[大阪市]
- ・鉄砲町地区において「下水再生水の熱利用」と「せせらぎ用水利用」を同時に行う「下水再生水複合利用事業」に取り組む。[堺市]

※下水処理水を環境用水として水路や河川に放流し、景観創出や親水用水としての活用、水質の向上に利用している。

➤ 下水道事業のPR

- ・出前トーク、施設見学会、セミナーを実施することで、下水道事業のPRを継続実施。[京都市、堺市、神戸市]
- ・アクアサポーター制度、上下水道モニター制度を実施し、市民と協働して事業の運営やサービス向上を継続実施。[神戸市、京都市]



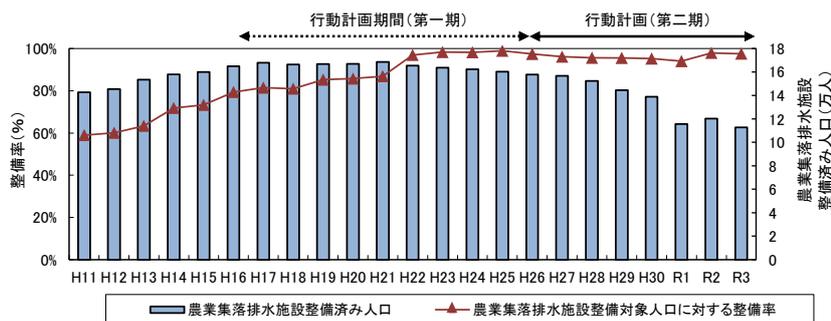
小学校での出前授業

写真提供：神戸市

図 7 出前授業

➤ 農業集落排水事業

- ・農業集落排水施設の機能強化を実施。[近畿農政局、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県]
- ・農業集落排水施設整備対象人口に対する整備率は9割以上を達成。[近畿農政局]
- ・農業集落排水施設整備率は平成16年度の79.4%から令和3年度に97.5%に増加。[近畿農政局]



※農業集落排水施設整備対象人口に対する整備率は整備計画人口に対する整備済み人口の割合を示す。

図 8 農業集落排水施設整備対象人口に対する整備率等

➤ 浄化槽整備事業

- ・浄化槽設置を行う個人、市町村に対して補助・交付を継続実施。[滋賀県、京都府、大阪府、奈良県]
- ・浄化槽の整備、合併浄化槽への転換の促進。[京都市、兵庫県]

➤ 市民、NPO、企業等の参画による負荷削減対策

- ・市民、NPO、企業等の参画による負荷削減対策として、大和川水質改善強化月間を実施。[大和川水環境協議会]

➤ 流域住民参加による負荷削減対策

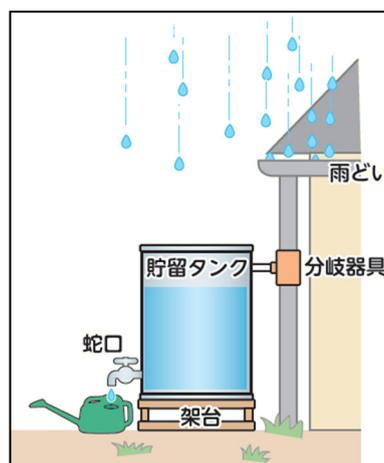
- ・第12回強化月間として、企業や教育機関と協力した大和川水質改善強化月間を実施。[近畿地方整備局]

b. 面源負荷対策

- 負荷削減のための計画策定・見直し、計画に基づく事業実施
 - ・汚濁負荷量の削減対策、下水道の普及促進、高度処理施設の整備及び既存処理場の高度処理化、合流式下水道の改善事業の実施 [近畿地方整備局、自治体]
- 市街地排水対策
 - ・雨水幹線の整備等 (山寺川市街地排水浄化対策事業、守山栗東雨水幹線整備事業) により降雨時に流出する汚濁負荷の軽減を実施。[滋賀県、草津市、守山市、栗東市]
 - ・雨水の有効利用や流出抑制を目指し、公園や学校校庭に雨水貯留施設の整備を実施。[神戸市]
 - ・助成制度により一般家庭等を対象とした雨水貯留タンクの普及を促進。[大津市、京都市、京都府内関係市町村、大阪市]
 - ・雨水浸透枳の設置により雨水の流出率の低減を実施。[京都市]



雨水貯留施設イメージ (京都市提供)



イメージ図提供：京都市

図 9 雨水貯留施設及び家庭用貯水タンクイメージ

- 農業濁水対策
 - ・農業濁水の発生抑制・流出防止のため、チラシ、巡回による啓発活動を継続実施、農業濁水防止に効果が高い直進アシスト機能付き田植機の導入を支援 (10 台) [滋賀県]

c. 河川浄化対策

➤ 河川浄化施設の整備・維持管理

- ・河川から赤野井湾へ流入する汚濁負荷（窒素、燐等）を削減するため内湖拡幅及びモニタリング調査を実施。[滋賀県]
- ・大和川水系の河川浄化施設の維持管理を継続実施。[奈良県]
- ・一級河川大川（旧淀川）左岸の毛馬桜之宮公園貯木場跡の水辺を活用し、昨年度までの効果検証を踏まえた浄化施設のあり方を検討。[大阪府]

➤ 浄化浚渫・覆土等

- ・栄養塩溶出削減対策として木浜内湖において 0.1ha(整備土量 1,332 m³) (見込み)の覆土工とモニタリング調査を実施。[滋賀県]
- ・平野川において有機成分の放出源になる河川底質に堆積したヘドロの浚渫により除去する河川浄化浚渫を実施。[大阪府]



※西の湖では、水質改善対策として過年度の検討会でとりまとめられた、ウルトラファインバブルによるモデル事業を実施。

図 10 河川浄化浚渫・覆土実施場所



図 11 覆土工の実施状況（木浜内湖）



図 12 植生工の実施状況（木浜内湖）

写真提供：滋賀県

d. 森林整備等

➤ 行政による森林整備

- ・近畿中国森林局が管理する森林のうち、100ha を整備（新植、下刈り、保育間伐等）（見込み）。[近畿中国森林管理局]
- ・滋賀県が管理する 2,600ha の森林を整備（見込み）、保安林を新たに 500ha 指定予定。[滋賀県]
- ・大阪府が新たな保安林を 34ha 指定予定、間伐事業を継続実施。[大阪府]
- ・京都府が管理する森林の整備し、保安林を新たに 23ha 指定予定。[京都府]
- ・兵庫県や関係市町が管理する森林の整備を継続予定。[兵庫県、兵庫県関係市町ほか]
- ・奈良県の管理する森林で間伐を約 3,235ha 実施予定（見込み）。[奈良県]

➤ 市民・NPO、企業等の参画・連携による森林整備（「(2) 親しみやすい魚庭の海 d. 市民や企業の取り組みへの参画促進、取り組みの支援」の取り組みとしても実施）

- ・伊崎国有林において下草刈り作業や、枝打ち作業、歩道整備、自然観察会、竹林整備を実施。[近畿中国森林管理局]
- ・箕面国有林において「オオクワガタの棲める森づくり」保育作業（下刈り、シカ防護柵補修、歩道整備、その他施設整備）を継続実施。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行った上で、近畿圏内の大学生を対象に、森林環境教育を実施（2回）。[近畿中国森林管理局]



下草刈り（伊崎国有林）



枝打ち（伊崎国有林）

写真提供

近畿中国森林管理局



竹林整備（伊崎国有林）



森林環境教育プログラム森の探検隊
（箕面国有林）

図 13 国有林におけるボランティアによる森林整備と森林環境教育の様子

- ・ 応援サイトやイベントカレンダー等の作成により、森林ボランティア団体への支援を実施。びわ湖水源の森づくり月間を中心とした普及啓発活動や森林づくり交流会の開催、地域普及啓発活動を継続実施。全国植樹祭、ポスト植樹祭イベントの開催（地域普及啓発活動等：約 2,000 人）〔滋賀県〕
- ・ 森林ボランティア団体の支援、企業の森づくり活動の自立支援、府民参加の森づくり活動の推進等により 60ha(見込み)の森林を整備。〔京都府〕
- ・ 森林ボランティア団体の支援として、森林・山村多面的機能発揮対策事業により 29 団体の里山保全活動を支援、「森づくり委員会」の支援のためのサポート協議会を開催、アドプトフォレストの問合せを 13 件受付。〔大阪府〕
- ・ 森林ボランティア活動の支援として、兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会の運営、森林ボランティア講座、リーダー養成講座の開催、森林ボランティア活動経費への支援を継続実施。〔兵庫県〕



図 14 ボランティア講座

写真提供：兵庫県

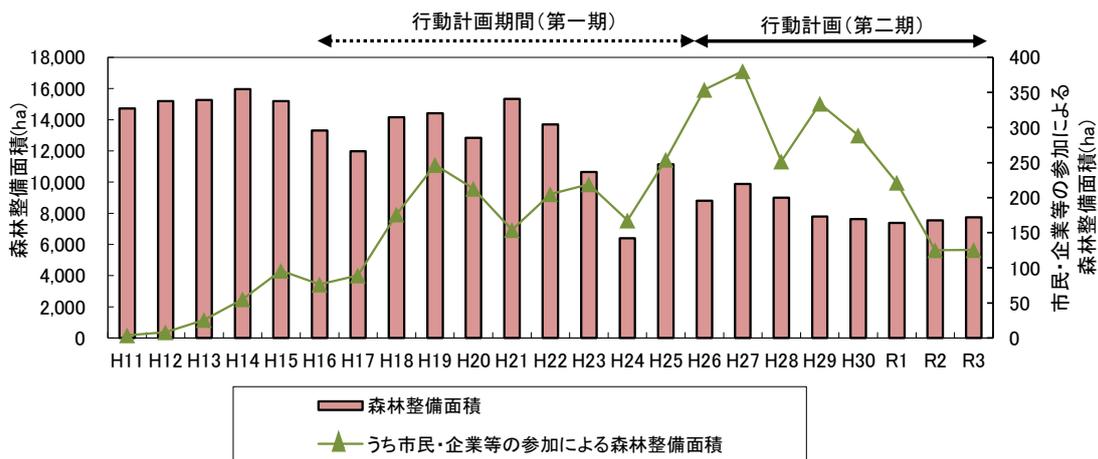
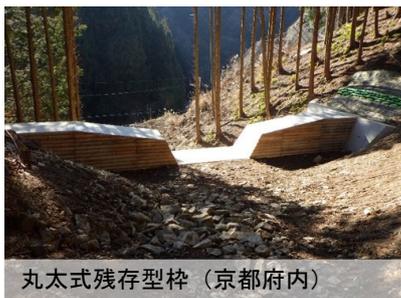


図 15 森林整備面積

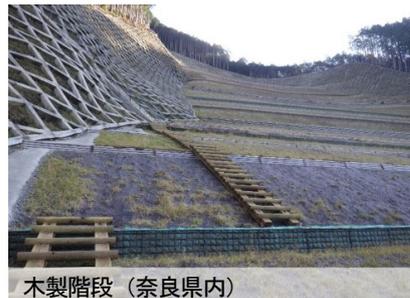
➤ 木材の利用促進

- ・「新農林水産省木材利用推進計画」に基づき、木材利用を推進。[近畿中国森林管理局]
- ・公共工事における府県産木材の利用を推進。[滋賀県、大阪府]
- ・ウッドマイレージCO₂認証制度、公共工事等にかかる間伐材の利活用検討会等により、木材の利用を推進。[京都府、奈良県]
- ・公共工事等にかかる間伐材の利活用検討会を通じて3.1 m³(県土マネジメント部) + 2,049.0 m³(水循環・森林・景観環境部)(見込み)の間伐材を利用。[奈良県]



丸太式残存型枠 (京都府内)

写真提供：近畿中国森林管理局



木製階段 (奈良県内)

写真提供：近畿中国森林管理局



木製筋工 (和歌山県内)

写真提供：近畿中国森林管理局



木製筋工 (和歌山県内)

写真提供：近畿中国森林管理局

図 16 公共工事における間伐材等の利用

e. 浮遊ごみ、漂着ごみ、河川ごみ等の削減

➤ 河川ごみ回収活動・啓発活動

- ・河川愛護月間等のイベント(大和川クリーンデー等)を通じた河川清掃活動を継続実施。[近畿地方整備局、関係府県、沿川市町村、企業、環境団体、地元住民等]
- ・滋賀県ごみの散乱防止に関する条例で定める「環境美化の日」を中心に県民、企業、行政が一体となった環境美化活動を継続実施し、結果を一般公表。[滋賀県]
- ・環境美化監視員によるごみのポイ捨てに対する監視及び予防啓発等を継続実施(散在性ごみ対策事業)。[滋賀県]
- ・ボランティア団体等が河川等の清掃活動を行う場合の支援を継続実施(淡海エコフオスター制度、地域の河川サポート事業、住民団体支援事業)。[滋賀県、京都府、奈良県]
- ・大和川・石川クリーン作戦は、令和4年度は令和5年3月に実施予定。(参加予定人数：約16,000人)[大和川河川事務所、大阪府、沿川市町村]

- ・地域住民・民間団体・企業等と連携した大和川一斉清掃を継続実施。[奈良県]
- ・河川生物環境の改善、河川漁業振興を図るため、漁業権河川（芥川、安威川、下音羽川、大路次川、山辺川、岩谷川、余野川、水無瀬川）のクリーンアップ活動を実施。[大阪府]
- ・集中的な美化活動・啓発活動（クリーンアップならキャンペーン月間）を継続実施。県内一斉の美化活動（ふるさと美化運動）は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止。[奈良県]
- ・県内各地で環境美化活動（クリーンアップひょうごキャンペーン）を継続実施。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動内容の変更、規模縮小の上継続実施。[兵庫県]
- ・大和川において、大学や企業と連携し、街中で発生したごみが川を流下している実態等を把握・広く啓発することを目的にした美化活動イベントを実施。[大和川河川事務所、大阪府、藤井寺市]



写真提供：兵庫県



写真提供：近畿地方整備局



写真提供：奈良県

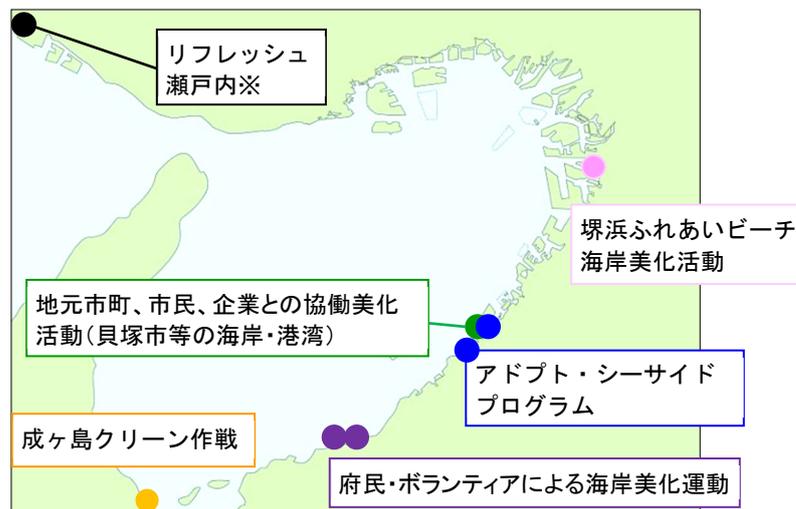


写真提供：近畿地方整備局

図 17 河川清掃活動の様子

- 河川清掃活動
 - ・河川愛護月間等のイベントを活用した河川清掃活動及び市民主体の河川清掃活動を実施。[近畿地方整備局]
 - ・流域住民、沿岸市町村、大阪府、奈良県、近畿地方整備局が流域一体となり、大和川の美化・啓発の一環として清掃活動を実施。[近畿地方整備局]

- 市民、企業等との連携による海岸美化活動（「(2) 親しみやすい魚庭の海 d. 市民や企業の取り組みへの参画促進、取り組みの支援」の取り組みとしても実施）
 - ・リフレッシュ瀬戸内キャンペーンによる海岸清掃美化活動の継続実施。（高砂港内）。[瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会など]
 - ・岸和田市港緑町（岸和田市立浪切ホール）において魚庭（なにわ）の海づくり大会を開催し、環境活動団体の活動紹介、海岸清掃、稚魚放流、魚介類などの試食等を実施。（約 10,000 人来場）[魚庭の海づくり実行委員会、大阪府]
 - ・地元市町、市民、企業との協働美化活動（貝塚市等の海岸・港湾）の継続実施。府民・ボランティアによる海岸美化活動（せんなん里海公園・長松海岸）についても継続実施。[大阪府]
 - ・成ヶ島クリーン作戦の実施による海岸漂着ごみ清掃活動を実施予定。[近畿地方整備局、各自治体]
 - ・アドプト・シーサイド・プログラムにおいて、二色の浜海岸、脇浜海岸での清掃活動を継続実施しており、二色の浜海岸での清掃活動を実施予定。[大阪府、ボランティア団体など]
 - ・堺浜ふれあいビーチの海岸美化活動を継続実施。（実施回数 3 回、401 人参加）[堺市]



※リフレッシュ瀬戸内についてはブロック拠点の実施箇所のみを示している。

図 18 主な海岸美化活動実施状況



写真提供：近畿地方整備局港湾空港部・大阪府

図 19 海面清掃兼油回収船による浮遊ごみ等の回収

- ごみ回収量、組成分析調査
 - ・海域ごみ清掃事業により、海面に浮遊しているごみや漁港に流れ着いたごみ、海底に堆積しているごみなど 1,200 m³を回収（見込み）。[大阪府、(特非) 海域美化安全協会]

- 廃船・廃棄物撤去及び浮遊物の挙動解析システムの開発等
 - ・廃船や廃棄物等の投棄を監視し、港湾漁港管理者等と連携して、原因者又は管理者による撤去等を実施。[第五管区海上保安本部]
 - ・海洋環境整備船による浮遊ごみ約 640 m³の回収（見込み）。[近畿地方整備局]
 - ・海洋短波レーダーの表層流観測及び大阪湾内 11 地点に設置した水質定点自動観測機器*による連続観測による大阪湾の汚濁メカニズムの解明に向けた取り組みを実施。[神戸港湾空港技術調査事務所、神戸港湾事務所]

※観測地点のうち、関西 MT 局については平成 30 年に発生した台風 21 号の被災により現在休止中となっている。

※観測地点のうち、堺浜（流向流速）も平成 31 年 3 月 19 日から一時休止している。

f. モニタリングの充実（「(3) 豊かな魚庭の海」の取り組みとしても実施）

➤ 大阪湾再生水質一斉調査

- ・大阪湾再生水質一斉調査を、44 機関が 561 地点で実施。[第五管区海上保安本部、神戸港湾事務所、自治体など]

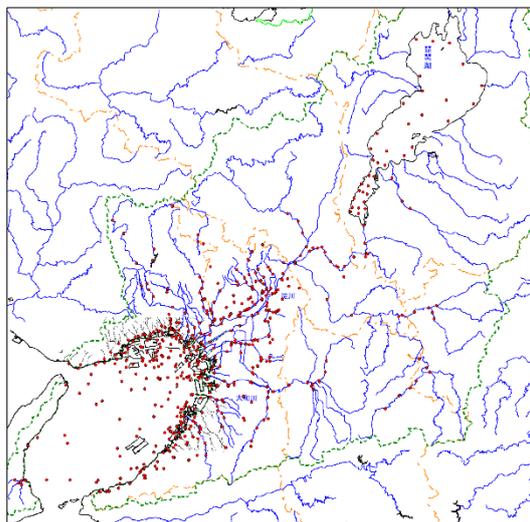


図 20 大阪湾再生水質一斉調査実施地点図
(令和 4 年度)



図 21 調査の様子

表 1-1 大阪湾再生水質一斉調査の実施状況

■行動計画期間（第一期）

		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
海 域	地点	160	206	217	208	194	214	204	199	198	200
	機関	12	20	22	24	28	31	28	28	29	30
陸 域	地点	250	242	266	253	246	262	266	296	298	305
	機関	18	17	17	17	16	16	16	16	16	16

■行動計画期間（第二期）

		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
海 域	地点	196	205	200	204	192	188	194	187	189
	機関	30	32	32	31	31	29	29	29	27
陸 域	地点	320	344	347	346	354	347	347	355	372
	機関	17	17	18	17	18	17	17	17	17

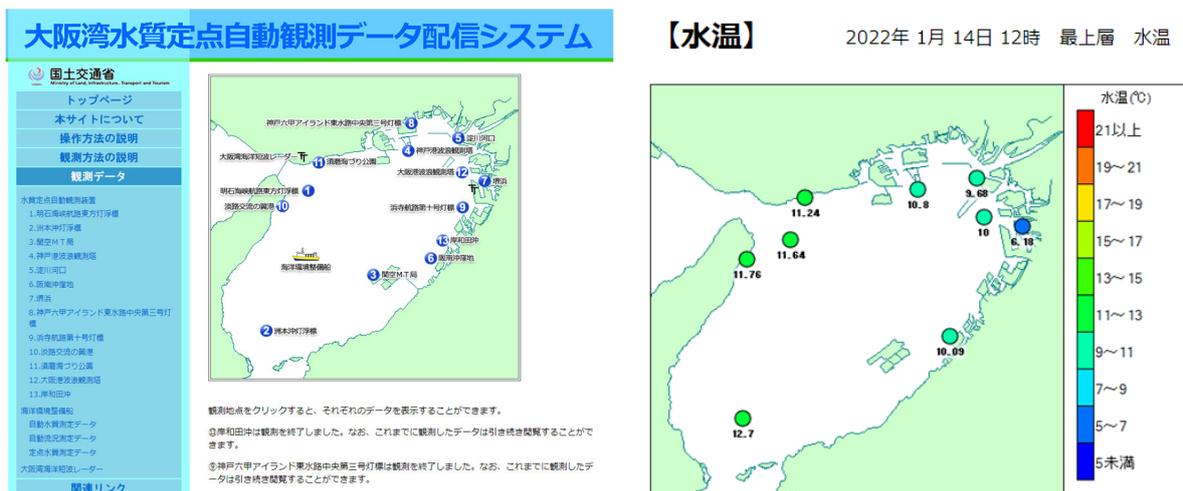
注) 機関数は、同一調査を 1 単位として集計したものであり、参加機関数と一致しない。

➤ 大阪湾水質定点自動観測

- ・大阪湾内 11 地点に設置した水質定点自動観測機器※による連続観測値をリアルタイムでインターネット配信。[神戸港湾空港技術調査事務所]

※観測地点のうち、関空 MT 局については平成 30 年に発生した台風 21 号の被災により現在休止中となっている。

※観測地点のうち、堺浜（流向流速）も平成 31 年 3 月 19 日から一時休止している。



<http://teiten.pa.kkr.mlit.go.jp/obweb/>

図 22 大阪湾水質定点自動観測データ配信システムホームページ

➤ 海洋短波レーダによる流況観測

- ・大阪湾に設置した海洋短波レーダにおいて流況の観測を実施しリアルタイムで配信。[神戸港湾空港技術調査事務所]

➤ 「豊かな大阪湾」環境改善モデル事業の実施

- ・湾奥部における水質面や生物の生息に適した場が少ないなどの課題の解決に向けた技術開発を目的に、モデル設備等を試験的に設置又は運用する民間事業者等への補助事業を実施。令和 3 年度採択事業のモニタリング継続。[大阪府]



図 23 令和 3 年度採択事業のモニタリング結果（南港野鳥園護岸）

- 大阪湾環境保全調査
 - ・多項目水質計による測定（水温、塩分、DO、クロロフィル、濁度、pH、流れ、透明度）を隔月で実施。[第五管区海上保安本部]

- 大阪湾船舶航行環境監視
 - ・近畿地方整備局で所有する海洋環境整備船に備え付けた水質観測装置で大阪湾内の水質を航行しながら把握し、リアルタイムで情報発信。[神戸港湾事務所]

- 広域総合水質調査（大阪湾）
 - ・大阪湾内で水質（10 地点）、植物プランクトン（4 地点）、底質（3 地点）、底生生物調査（3 地点）の調査を実施。[環境省]

- 瀬戸内海総合水質調査
 - ・海洋環境整備事業の一環として実施している瀬戸内海総合水質調査において、大阪湾で水質（21 地点）や底質（7 地点）等の調査を実施。[神戸港湾事務所、和歌山港湾事務所]
 - ・毎月、大潮小潮時に大阪湾 10 地点で水質調査を実施。[神戸港湾事務所]

- 公共用水域水質等調査
 - ・河川や海域の公共用水域で水質・底質等の調査を実施。[国、各自治体など]

- 河川水質調査
 - ・水質測定計画に基づき実施している河川水質調査の実施。[近畿地方整備局]

- 水生生物に係る調査
 - ・市内河川における魚類の生息状況を把握し、理化学的なデータでは測ることのできない水環境の評価を実施。（市内 19 か所、四季調査）[大阪市]

- 地域住民等と協働による河川水質・生物調査
 - ・ごみの量、透視度、川底の感触、水の臭いによる新しい水質指標による調査を地域住民等と協働して実施。[近畿地方整備局]

- 事業実施箇所におけるモニタリング調査
 - ・堺浜自然再生ふれあいビーチにおいて水質調査（1回/月）、底質調査・底生生物調査（1回/年）及びダイバーによる目視調査等（4回/年）を実施。[堺市]
 - ・窪地修復等に関する検討会でモニタリング結果や窪地の埋め戻しに関する課題等の検討を実施。[近畿地方整備局港湾空港部]
 - ・廃棄物最終処分場周辺海域（尼崎沖、泉大津沖、神戸沖、大阪沖処分場）において水質、底質、動植物のモニタリング調査を実施。[大阪湾広域臨海環境整備センター]

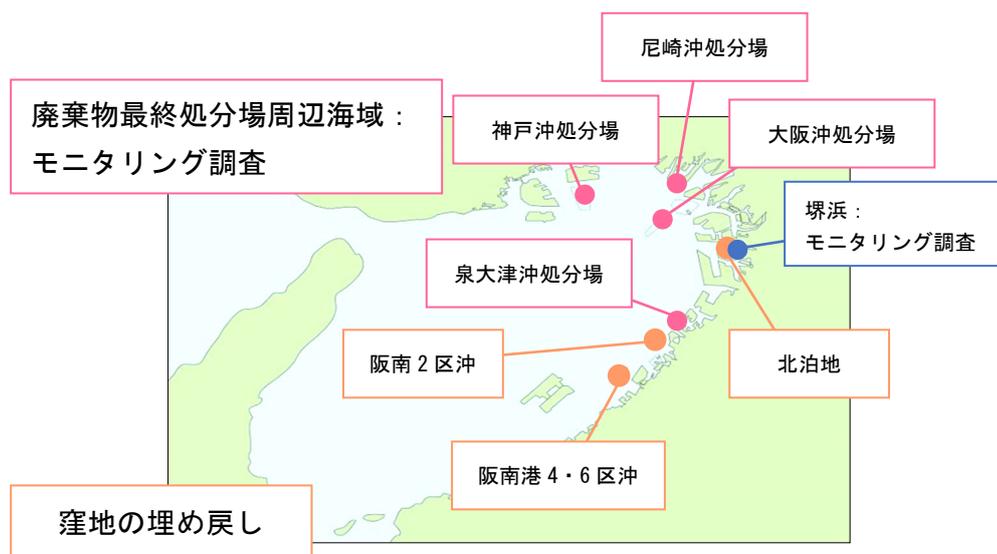


図 24 主なモニタリング実施状況

- 海洋汚染に係る調査・監視
 - ・主要港湾における汚染物質の濃度分布、外洋への拡散状況、経年変化等を把握するために、測量船で海洋汚染調査を実施。[海上保安庁海洋情報部]
 - ・主要港湾における海洋汚染調査、巡視船艇・航空機による海洋汚染の監視、取締りを実施。[第五管区海上保安本部]
- 公共用水域の水質・底質ダイオキシン類常時監視
 - ・公共用水域における水質及び底質のダイオキシン類の測定を実施。[大阪府、大阪市、堺市]
- 大阪湾に流入するプラスチックごみ量の推計及び大阪湾や河川敷等におけるごみの組成調査
 - ・AIを活用した大阪府域から大阪湾に流入するプラスチックごみ量の推計について精度の向上を図るとともに、大阪湾や河川敷等8箇所においてごみの組成調査を実施。[大阪府]

➤ ホームページ等による情報発信

- ・各調査結果をホームページ等で公開。[国、各自治体など]

例：大阪湾再生水質一斉調査 情報公開サイト

(<http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/water/outline.aspx>)

大阪湾再生水質一斉調査 情報公開サイト HOME

調査概要

調査実施状況について

【大阪湾再生水質一斉調査】とは、国、自治体、研究機関、企業などが連携し、再生水質が悪化する夏季において、統一された測定時期や測定方法によって水質を一斉に調査する取り組みです。
この水質一斉調査は全国に先駆けて平成16年度に第1回目の調査を開始し、毎年8月に実施して実施しています。
これまでの実施回数は以下のとおりです。

大阪湾水質一斉調査の実施状況

調査年度	主な調査日	海域		陸域	
		地点	機関	地点	機関
平成16年	8月21日	160	12	250	18
平成17年	8月21日	206	20	242	17
平成18年	8月21日	217	22	266	17
平成19年	8月7日	208	24	253	17
平成20年	8月5日	194	28	246	16
平成21年	8月5日	214	31	262	16
平成22年	8月3日	204	28	266	16
平成23年	8月5日	199	28	296	16
平成24年	8月6日	198	29	298	16
平成25年	8月11日	200	30	305	16
平成26年	8月5日	196	30	320	17
平成27年	8月6日	205	32	344	17
平成28年	8月9日	207	32	346	18
平成29年	8月11日	204	31	346	17
平成30年	8月6日	192	31	354	18
令和元年	8月7日	188	29	347	17
令和2年	8月11日	194	29	348	17
令和3年	8月3日	187	29	355	17

注) 平成26年度は8月5日を中心に調査を実施していますが、8月5日を中心に調査を実施した前半と、8月9～10日に実施した台風の被害を受けたと考えられる後半(8月11日を中心に実施)に分けて結果を示しています。

令和3年度地点図

地点図

- ・令和3年度
- ・令和2年度
- ・令和元年度
- ・平成30年度
- ・平成29年度
- ・平成28年度
- ・平成27年度
- ・平成26年度
- ・平成25年度
- ・平成24年度
- ・平成23年度
- ・平成22年度
- ・平成21年度
- ・平成20年度
- ・平成19年度
- ・平成18年度
- ・平成17年度
- ・平成16年度

図 25 ホームページ等による情報公開（大阪湾再生水質一斉調査）

g. その他

➤ 底質ダイオキシン類対策

- ・ 神崎川、古川において浄化浚渫を実施。[大阪府]
- ・ 調査結果にもとづく汚染要因の検討、浄化対策方針の検討、河川・港湾工事に伴う対策マニュアルの検討の終了。今後は答申に基づき対策を推進。[大阪府]

➤ 親水空間の整備

- ・ 本町橋から農人橋間（東横堀川）の整備を実施（高水敷、船着場等）。[大阪市]



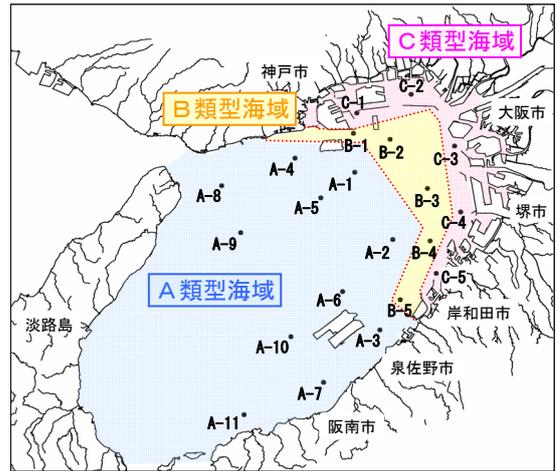
写真提供：大阪市

図 26 本町橋周辺の拠点（東横堀川）の整備

2) 評価結果

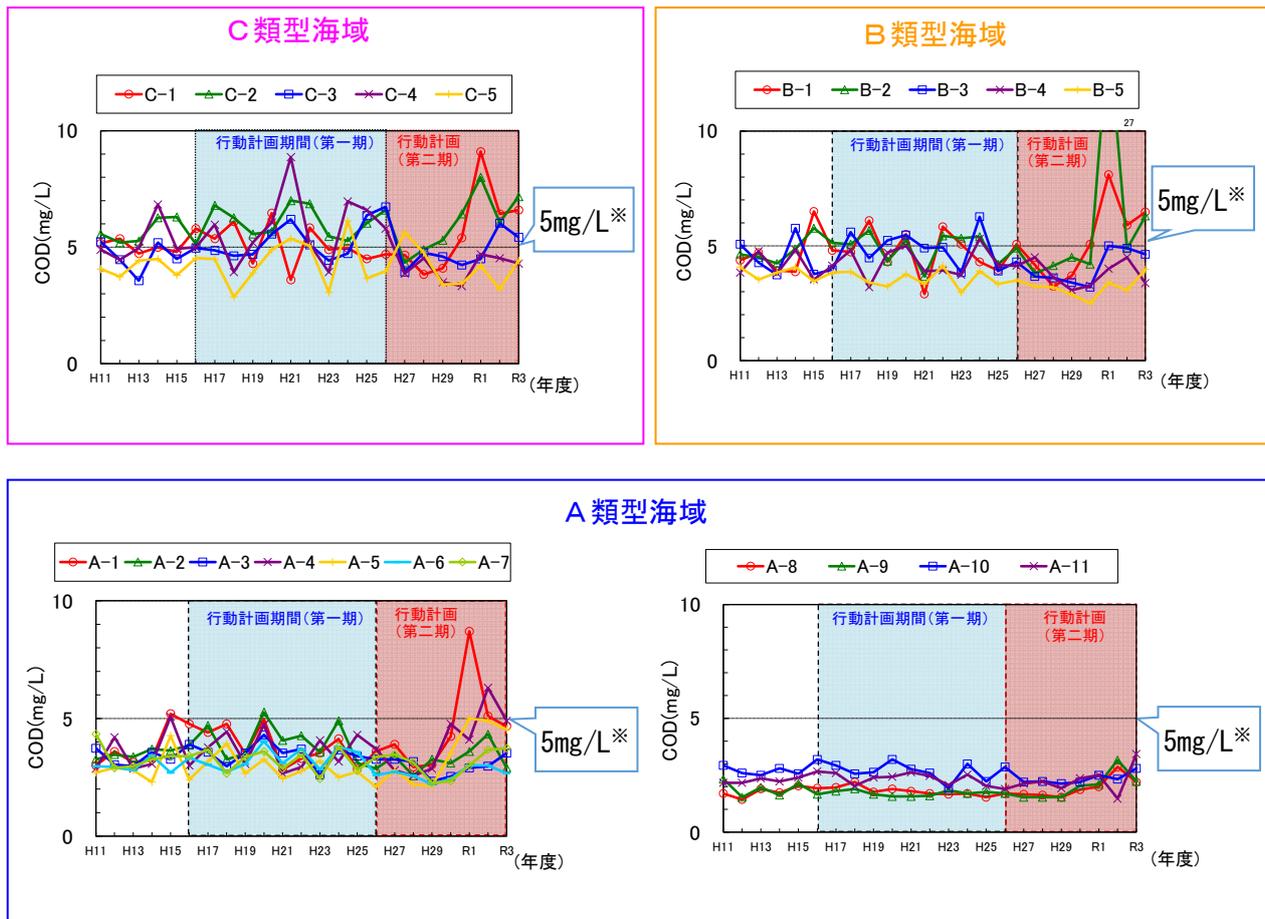
a. 表層 COD

- ・経年変化を見ると、年による変動がみられ、西宮市沖や神戸市東部沖で5mg/L以上となっている海域がみられたが、その他の地点では全体的に5 mg/L 以下の値でほぼ横ばいで推移している。
- ・再生行動計画前と現在の水平分布図（公共用水域水質測定結果による5年平均）を比較すると、夏季に、依然として湾奥部の一部で5mg/Lを超える海域がみられるが、その範囲はやや縮小傾向にある。冬季では、湾央のやや北部で2mg/L以下の海域が拡大している。



区分	利用目的の適応性
A類型	マダイ・ブリ・ワカメ等の水産生物用、水浴、自然探勝等の環境保全
B類型	ボラ・ノリ等の水産生物用、工業用水
C類型	国民の生活（沿岸の遊歩等を含む）において不快感を感じない限度

【海域別経年変化図 夏季（6～8月平均）】



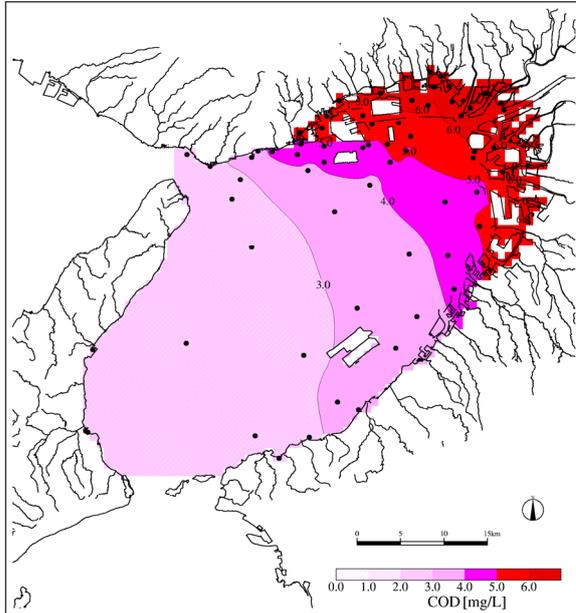
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※評価指標値の目安：散策や展望に適した表層CODを5 mg/L以下として設定した

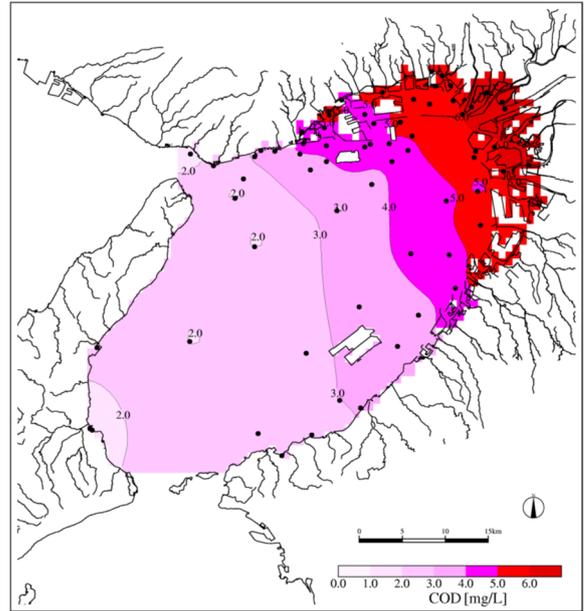
図 27 表層CODの経年変化 夏季（6～8月平均）

【水平分布図（表層COD）】

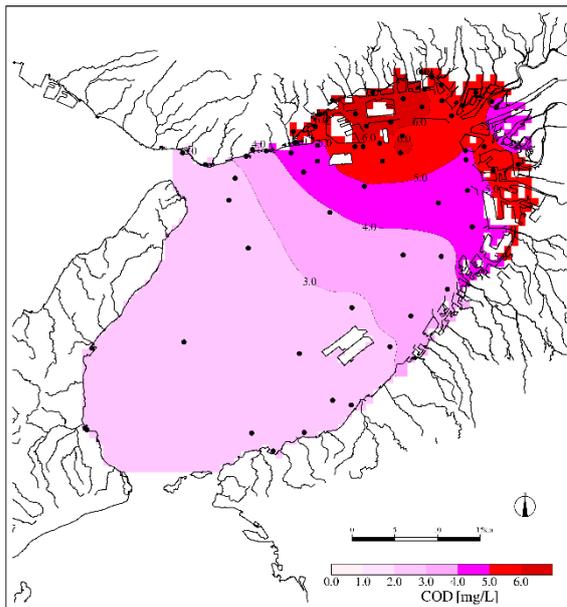
- ・ 公共用水域水質測定結果による夏季（6～8月）5年平均※
 <再生行動計画前（平成11～15年度）>



- <第二期再生行動計画前（平成21～25年度）>



- <現在（平成29～令和3年度）>



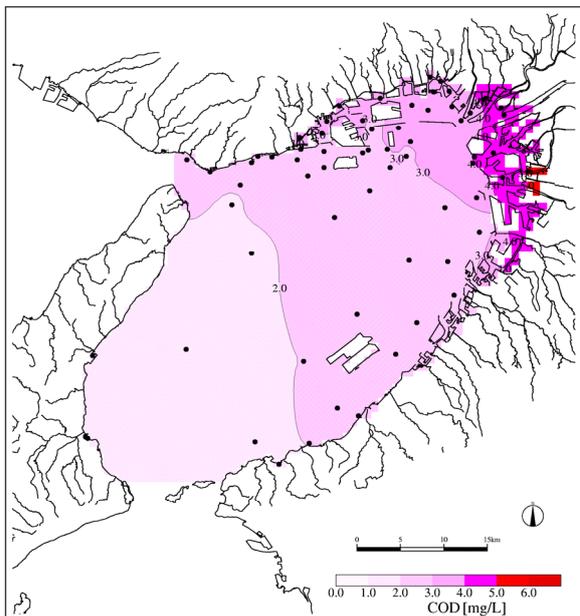
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

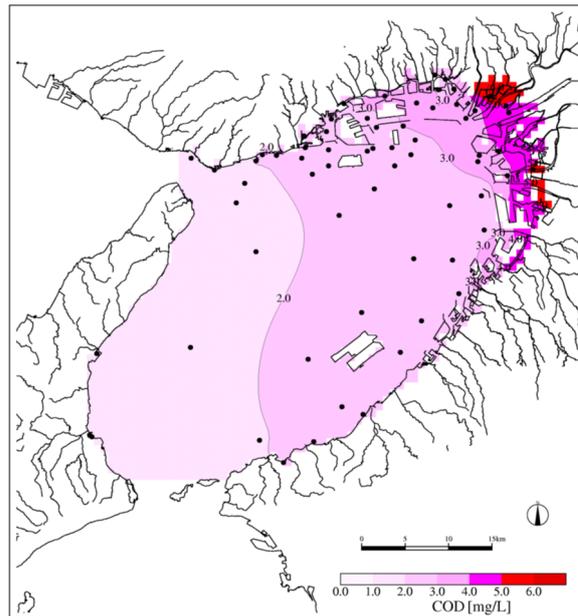
図 28 表層CODの水平分布（夏季5年平均※）

・ 公共用水域水質測定結果による冬季（12～2月）5年平均※

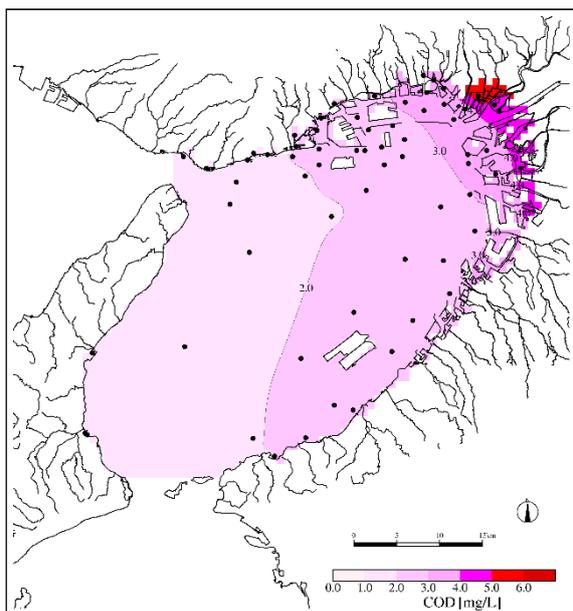
＜再生行動計画前（平成11～15年度）＞



＜第二期行動計画前（平成21～25年度）＞



＜現在（平成29～令和3年度）＞



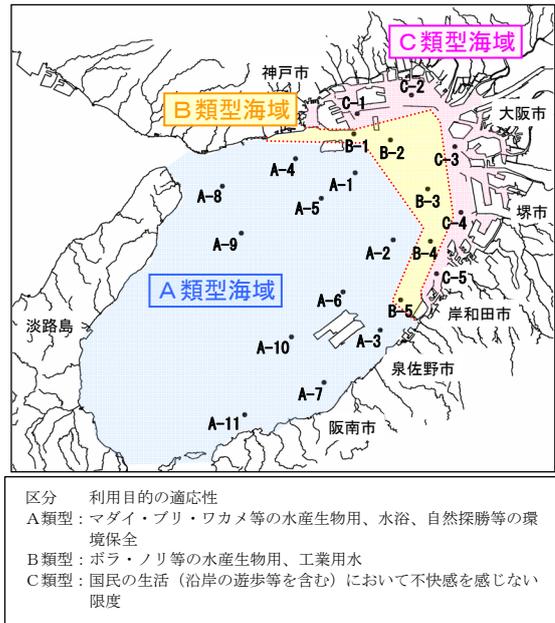
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

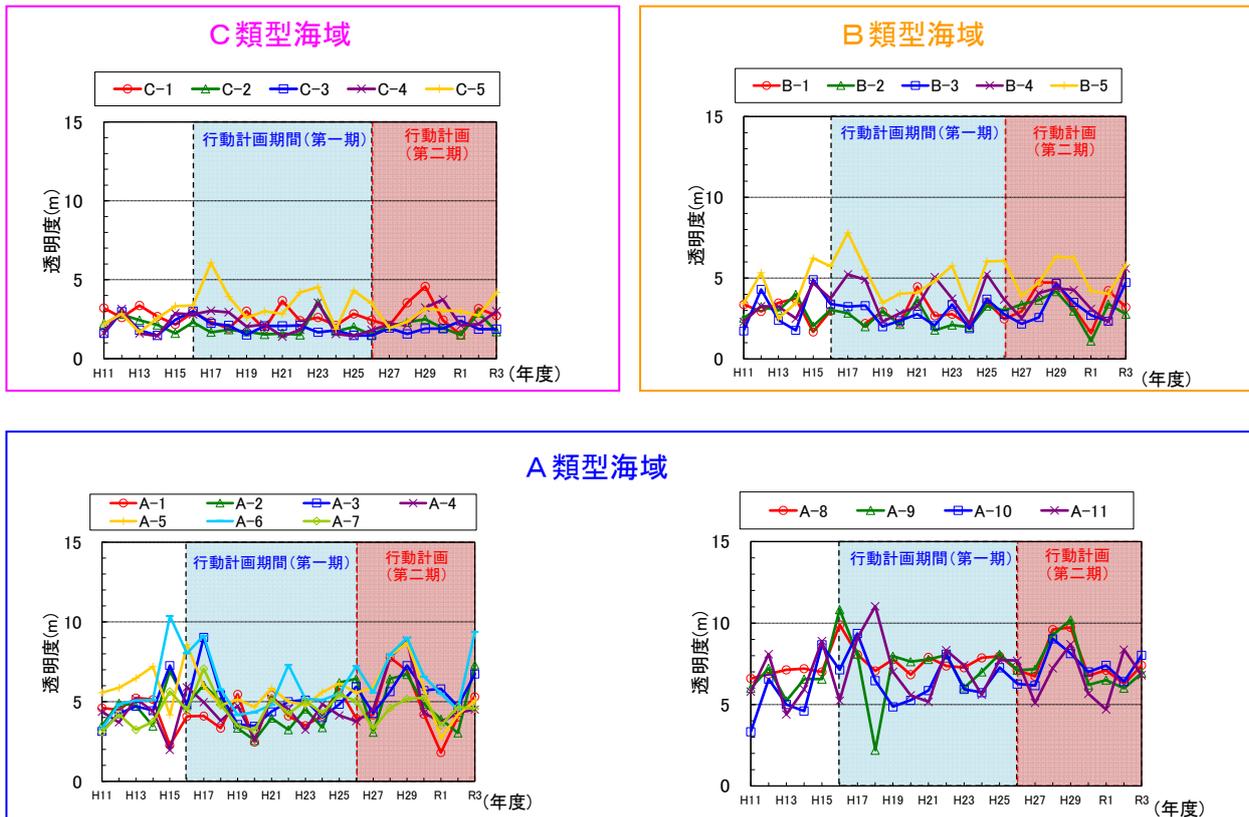
図 29 表層CODの水平分布（冬季5年平均※）

b. 透明度

- ・経年変化を見ると、年による変動がみられるものの、B 類型、C 類型はほぼ横ばいで推移している。
- ・再生行動計画前と現在の水平分布図（公共用水域水質測定結果による 5 年平均）を比較すると、夏季冬季ともに湾奥から湾奥にかけて 5m 以上の海域が拡大している。



【経年変化図 夏季（6～8月平均）】



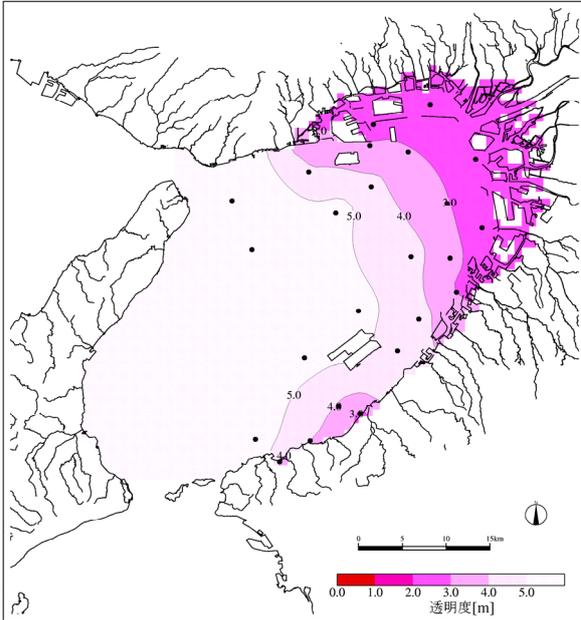
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

図 30 透明度の経年変化 夏季（6～8月平均）

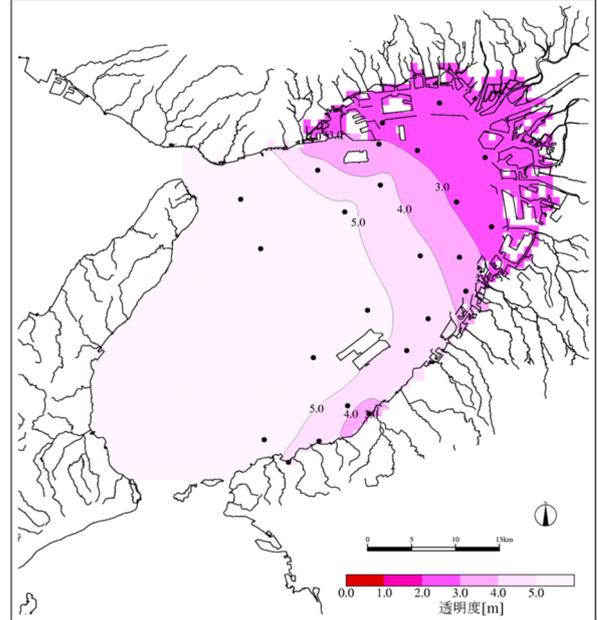
【水平分布図（透明度）】

- ・ 公共用水域水質測定結果による夏季（6～8月）5年平均※

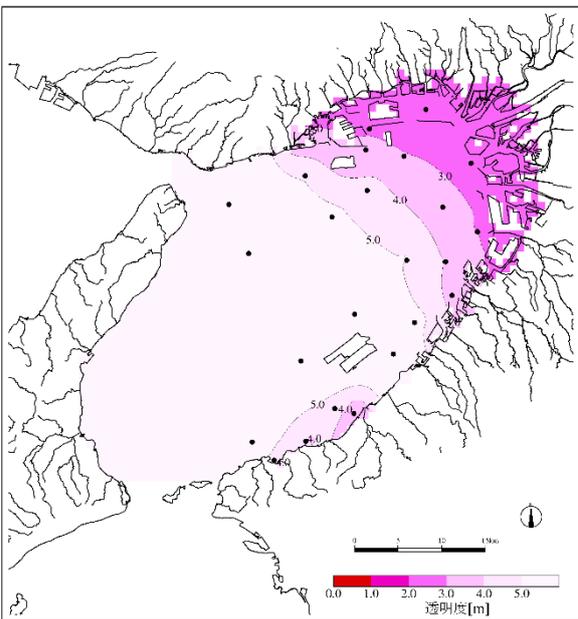
＜再生行動計画前（平成11～15年度）＞



＜第二期行動計画前（平成21～25年度）＞



＜現在（平成29～令和3年度）＞



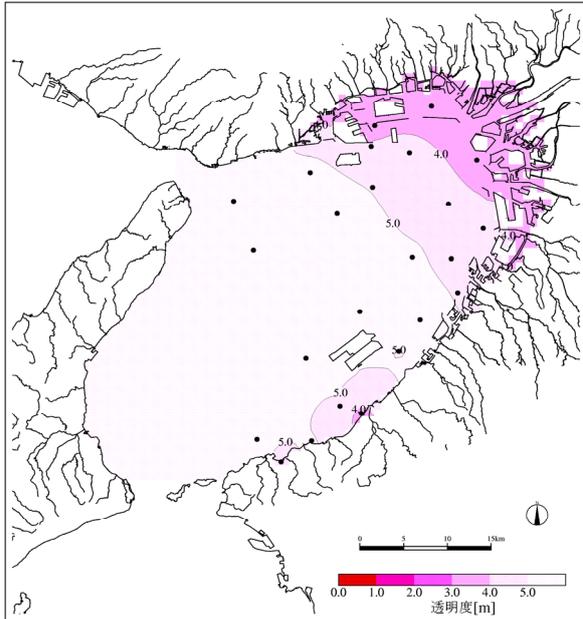
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

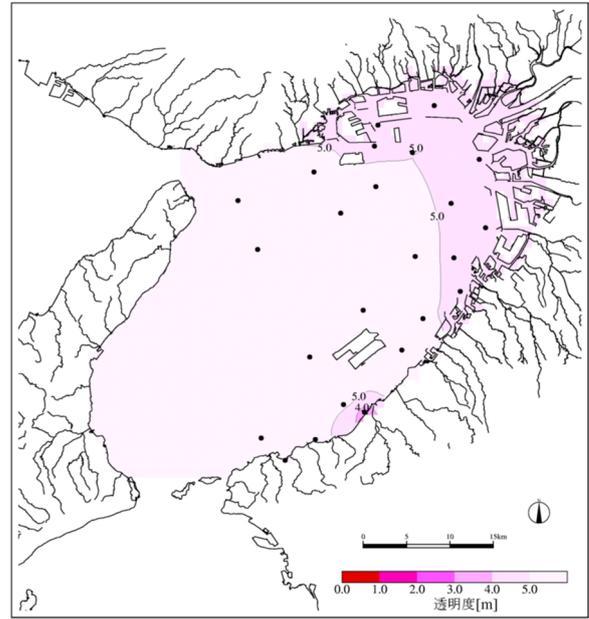
図 31 透明度の水平分布（夏季5年平均※）

・ 公共用水域水質測定結果による冬季（12～2月）5年平均*

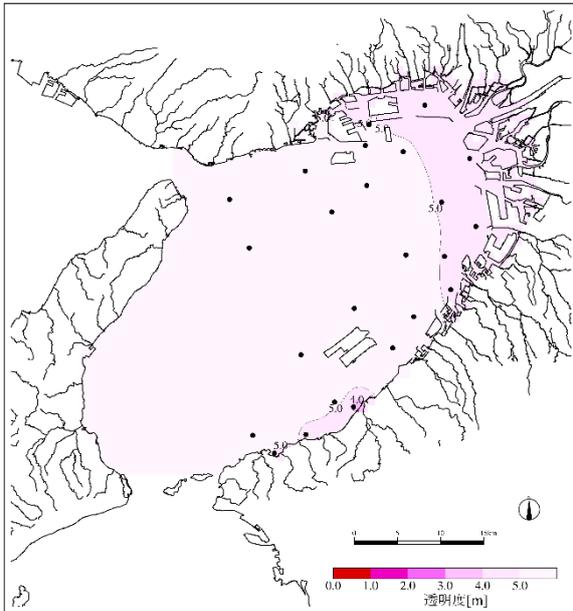
＜再生行動計画前（平成11～15年度）＞



＜第二期行動計画前（平成21～25年度）＞



＜現在（平成29～令和3年度）＞



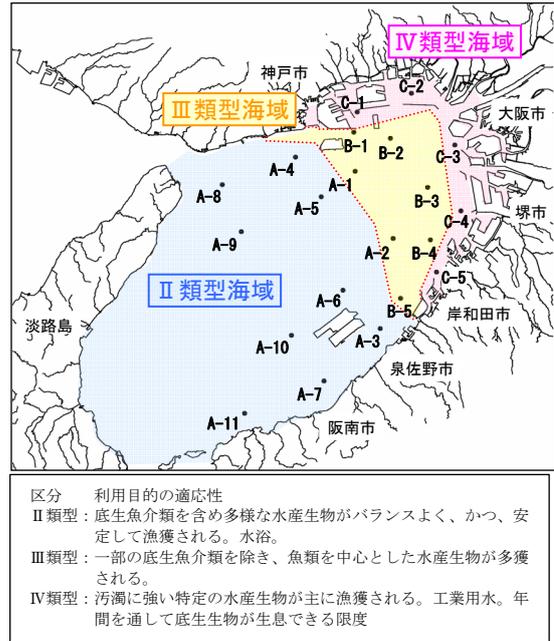
資料）公共用水域水質測定結果より作成

※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

図 32 透明度の水平分布（冬季5年平均*）

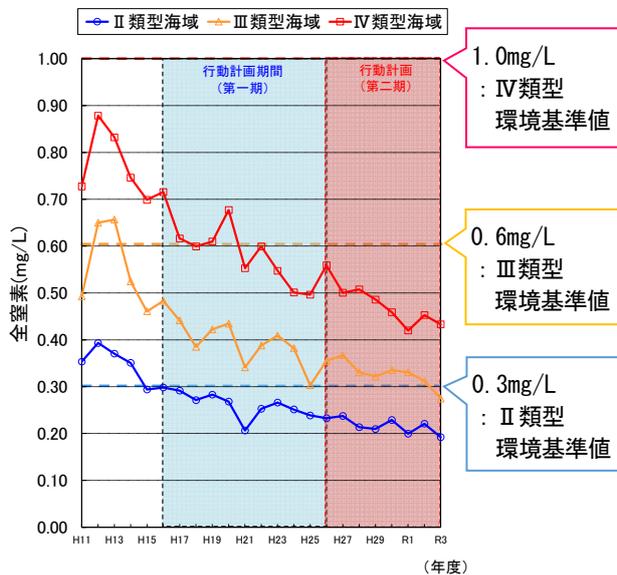
c. T-N（全窒素）、T-P（全磷）

- ・全窒素、全磷の経年変化を見ると、II、III、IV類型海域で概ね減少傾向がみられる。
- ・再生行動計画前と現在の水平分布図（公用水域水質測定結果による5年平均）を比較すると、特に湾中央～湾奥部付近で減少傾向がみられる。また、全窒素については湾北西部付近で 0.2mg/L を下回る海域がある。

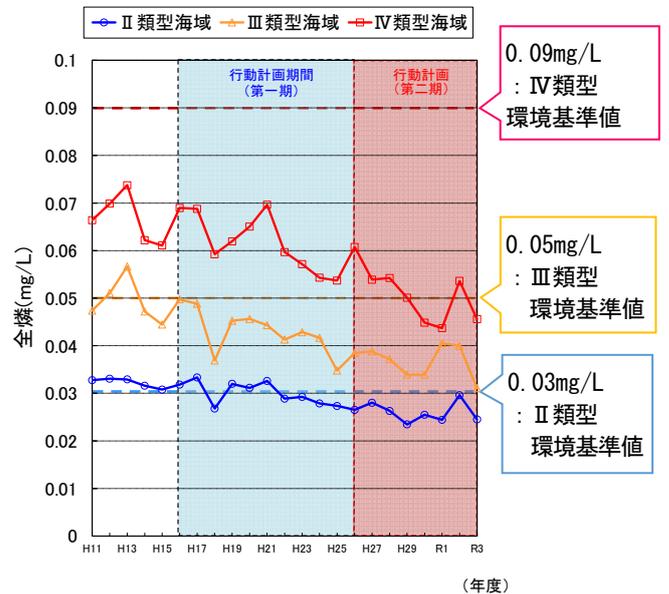


【経年変化図 年平均】

・ T-N（全窒素）



・ T-P（全磷）



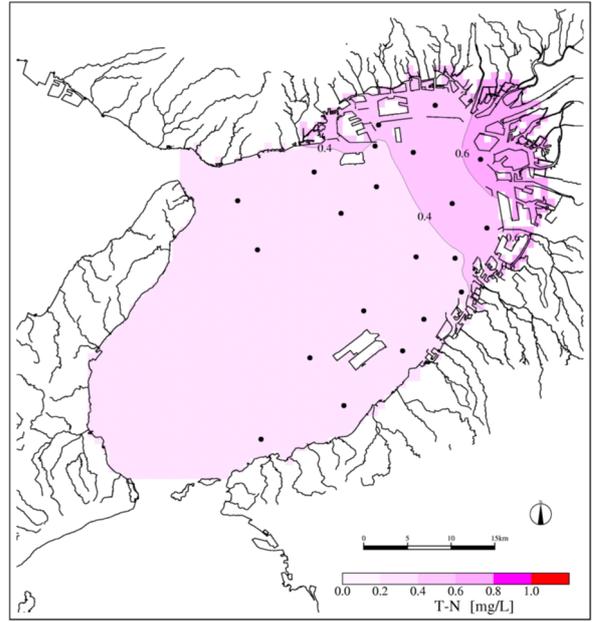
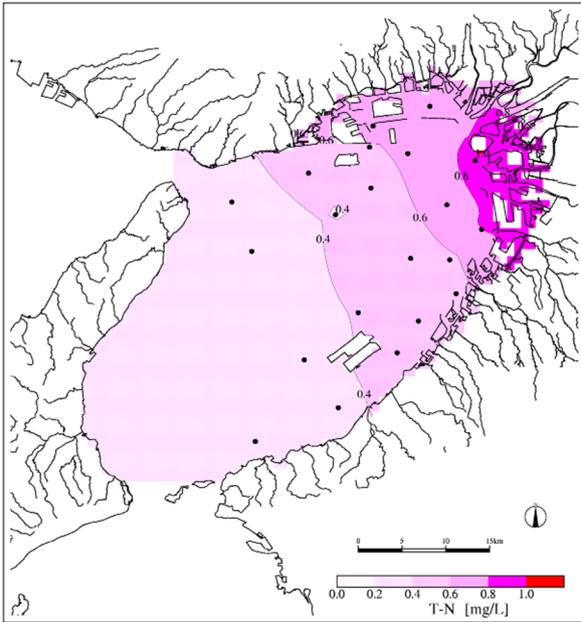
資料) 公用水域水質測定結果より作成

図 33 全窒素、全磷の経年変化（年平均）

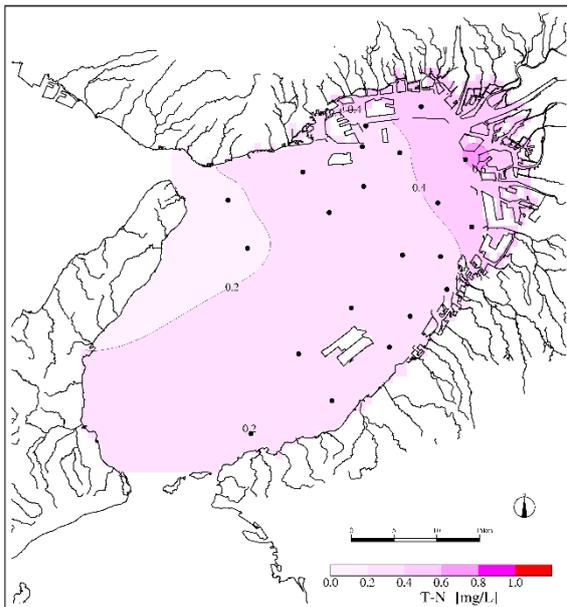
・【水平分布図（全窒素・公共用水域水質測定結果による5年平均※）】

＜再生行動計画前（平成11～15年度）＞

＜第二期行動計画前（平成21～25年度）＞



＜現在（平成29～令和3年度）＞



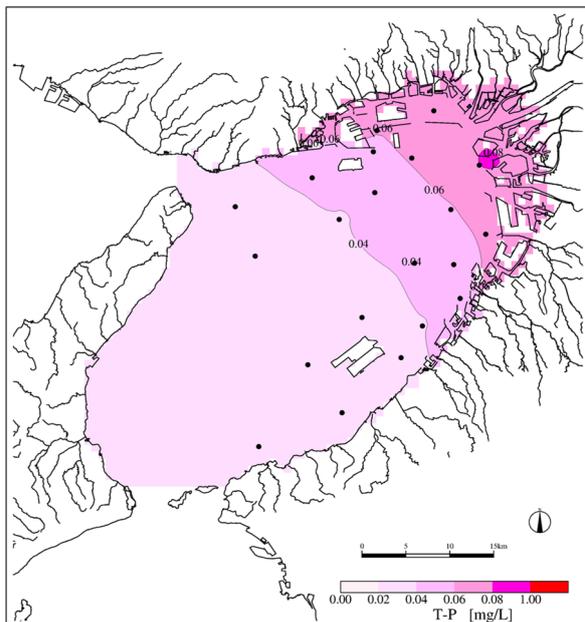
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

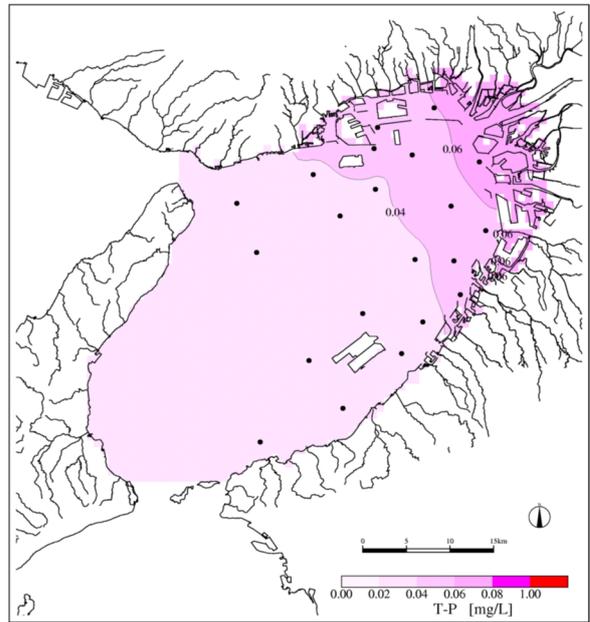
図 34 全窒素の水平分布（5年平均※）

【水平分布図（全燐・公共用水域水質測定結果による5年平均※）】

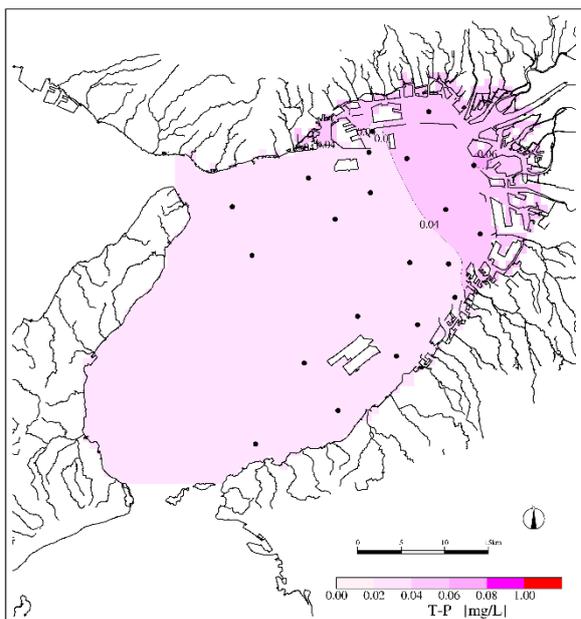
＜再生行動計画前（平成11～15年度）＞



＜第二期行動計画前（平成21～25年度）＞



＜現在（平成29～令和3年度）＞



資料）公共用水域水質測定結果より作成

※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

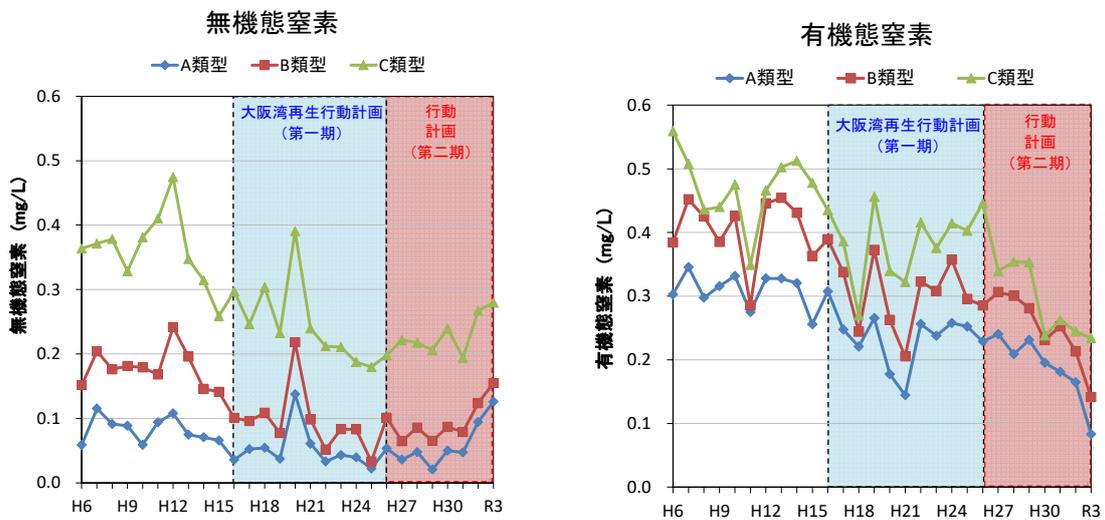
※再生行動計画前（平成11～15年）の水平分布図は、データを見直し令和元年度に修正した。

図 35 全燐の水平分布（5年平均※）

d. 形態別窒素・磷

- ・形態別窒素（有機態・無機態）の経年変化を図 36 に示す。年による変動がみられるものの、無機態窒素は第一期行動計画期間までは減少傾向にあったが、第二期行動計画期間には概ね横ばいに推移し、直近2年間はやや増加している。有機態窒素については、第一期行動計画期間までは概ね横ばいで推移しているが、第二期行動計画策定（平成26年度）以降で減少傾向にあり特に流入負荷量の大きい湾奥部（C類型海域）でその傾向が顕著である。
- ・無機態磷である磷酸態磷の経年変化を図 37 に示す。平成12年頃から減少傾向がみられていたが、第二期行動計画策定（平成26年度）以降は概ね横ばい傾向にある。

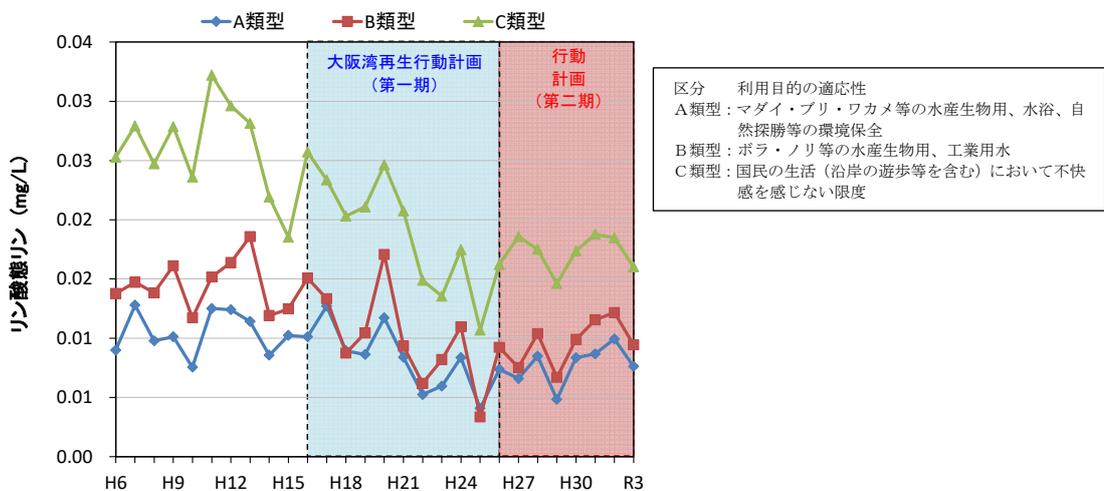
【経年変化図（形態別窒素）】



資料) 大阪府公共用水域水質測定結果より作成

図 36 形態別窒素の経年変化（表層、年平均値）

【経年変化図（磷酸態磷）】



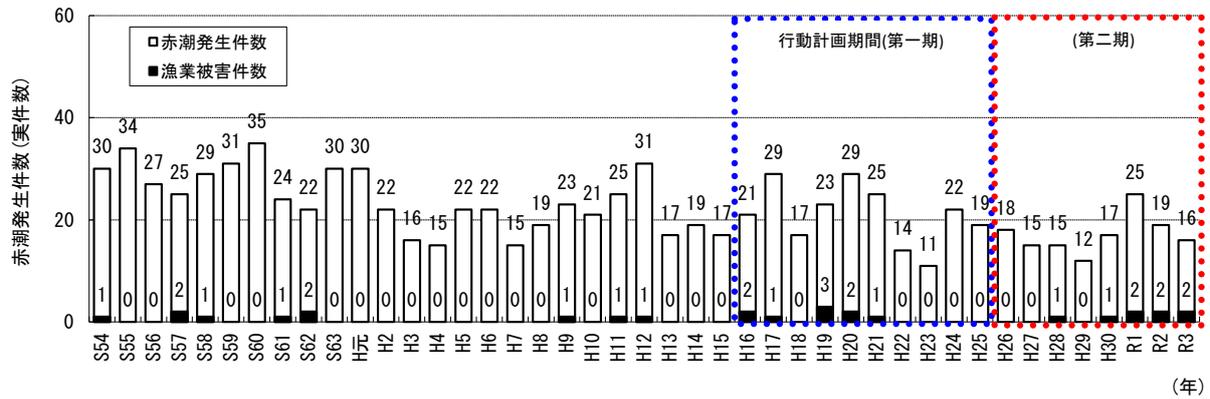
資料) 大阪府公共用水域水質測定結果より作成

図 37 磷酸態磷の経年変化（表層、年平均値）

e. 赤潮の発生状況

- ・第一期行動計画期間（平成16年～25年）中の大阪湾における赤潮発生件数は11～29件の範囲、第二期行動計画（平成26年）以降は12～25件の範囲で推移しており、令和3年度には赤潮が16件発生、うち漁業被害が2件報告された。

【経年変化（大阪湾における赤潮の発生状況）】



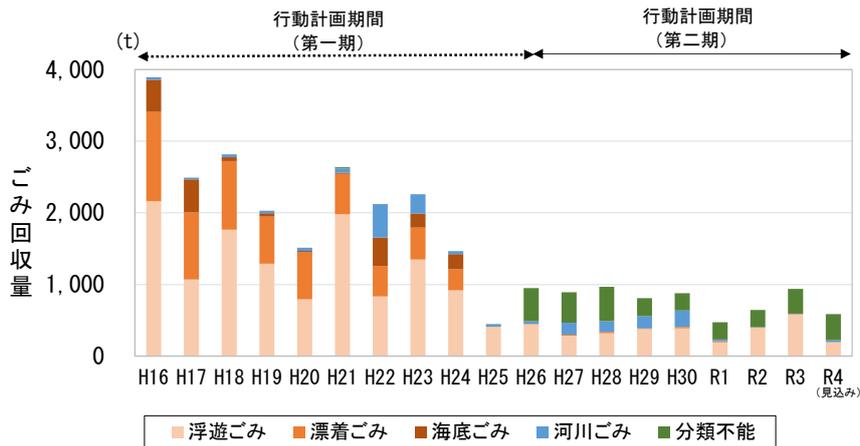
資料) 瀬戸内海の赤潮より作成

図 38 赤潮の発生件数及び漁業被害件数

h. ごみ回収量・回収活動参加者数

- ・大阪湾及び大阪湾集水域の河川において令和4年度に実施したごみ回収活動によるごみ回収量は586.4t（見込み）、ごみ回収活動参加者数は14,272人（見込み）であった。
- ・令和元年度末から令和4年度にかけて、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、多くのごみ回収活動を中止とした。

【経年変化（ごみ回収量）】



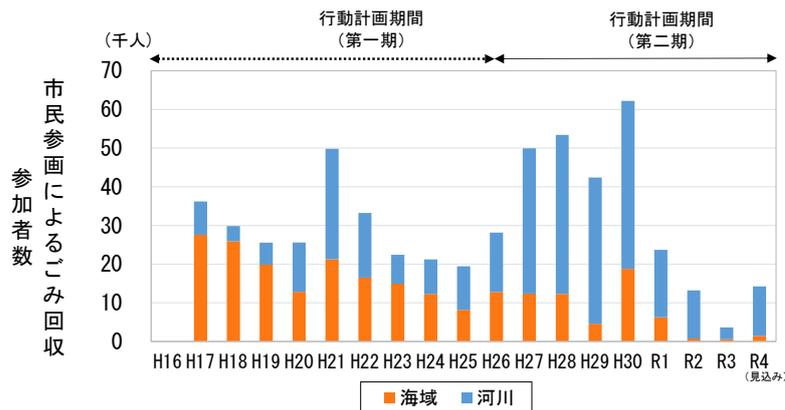
※平成26年度より、地元市町・市民・企業との協働美化活動、府民・ボランティアによる海岸美化運動、成ヶ島クリーン作戦、アドプト・シーサイド・プログラム、海岸美化活動（堺浜自然再生ふれあいビーチ）、海域ごみ清掃事業、大和川・石川クリーン作戦、内水面振興対策推進事業、大和川一斉清掃事業について新たに集計対象とした。

河川愛護月間等イベントを通じた河川清掃活動についてはすべての実施場所を集計対象とした。

※平成27年度より大和川リレー美化活動について新たに集計対象とした。

図 39 ごみ回収量

【経年変化（回収活動参加者数）】



※平成26年度より、地元市町・市民・企業との協働美化活動、府民・ボランティアによる海岸美化運動、成ヶ島クリーン作戦、アドプト・シーサイド・プログラム、海岸美化活動（堺浜自然再生ふれあいビーチ）、大和川・石川クリーン作戦、内水面振興対策推進事業、大和川一斉清掃事業について新たに集計対象とした。

河川愛護月間等イベントを通じた河川清掃活動についてはすべての実施場所を集計対象とした。

※平成27年度より大和川リレー美化活動について新たに集計対象とした。

図 40 ごみ回収活動参加者数

(2) 親しみやすい「魚庭（なにわ）の海」

<取り組みの状況>

● 砂浜、親水護岸等の整備

舞洲と夢洲の連続した海岸線における砂浜や磯場、干潟の造成を継続実施

● 親水緑地等の整備

尼崎臨海地域、海面廃棄物処分場跡地の緑地等への活用を推進/漁業者・ボランティア等による下草刈りを実施

● イベントの開催

兵庫運河の人工干潟や尼崎運河の水質浄化施設など、親水空間を活用した環境学習イベント及び、港湾施設見学会や海洋環境教室などを開催

● 市民や企業の取り組みへの参画促進、取り組みの支援

「ほっといたらあかんやん！第19回大阪湾フォーラム」、「海の教室」等のフォーラム・環境学習会を実施/「大和川清流復活ネットワーク」等の市町村や民間団体との情報共有を実施/緑地の一部を魚釣り場として開放

<評価結果>

● 砂浜、親水護岸等の整備延長については、累積で砂浜 0.2 km、親水護岸 6.0 kmの親水護岸を整備完了。親水緑地整備は令和4年度までに、累積で 82.2ha を整備完了。

● 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になったイベントもあるが、出前講座等の環境学習や海づくり大会等のイベント、森林整備・清掃活動等の多彩なイベントを、感染対策を実施しながら開催し、多くの参加があった。

<取り組みの成果>

● 親水施設等で開催した多彩なイベントに多数の参加を得るなど、一定の成果を得た。

● 今後も、**パブリックアクセスを踏まえた**魅力的な親水施設の整備、多彩なイベントの実施、及び市民・企業等の取り組みへの参画促進・取り組み支援の推進が望まれる。

黄色の網掛けは第二期計画の一部修正（R1.5）を踏まえて追加

1) 取り組みの状況

a. 砂浜、親水護岸等の整備

➤ 親水護岸、人工海浜等の整備

- ・舞洲と夢洲の連続した海岸線に砂浜や磯場、干潟の造成、海辺の緑化の継続実施し、進捗率は28%である。[大阪市]



図 41 整備実施場所

b. 親水緑地等の整備

- 臨海部における親水緑地の整備
 - ・ 尼崎臨海地域の緑化(尼崎 21 世紀の森)の推進。[兵庫県]
 - ・ ポートアイランド(第 2 期)西緑地の整備の継続実施。[神戸市]
 - ・ 堺 2 区において、人工干潟の環境の変化の推移を調べるための環境調査を実施。
[大阪府]
 - ・ 府営公園の管理を継続実施(府営浜寺公園、府営二色の浜公園、府営りんくう公園、府営せんなん里海公園)。[大阪府]
 - ・ 海面廃棄物処分場跡地の緑地等への活用を推進。[大阪府]
 - ・ 兵庫運河の新たな活用及び周辺地域の活性化のための設計、整備を実施。[神戸市]

- NPO・企業等の参加による臨海部での森づくり(「d. 市民や企業の取り組みへの参画促進、取り組みの支援」の取り組みとしても実施)
 - ・ 堺第 7-3 区共生の森づくり事業において「企業による森づくり連絡調整会(企業による森づくり促進のため、企業が参画しやすい環境づくり、他の参加団体と森づくりの調整や情報交換を実施)」を継続実施。[大阪府]

- 漁業者、市民等による森林整備(「d. 市民や企業の取り組みへの参画促進、取り組みの支援」の取り組みとしても実施)
 - ・ 岸和田市において、漁業者、ボランティア等による下草刈りを実施。[大阪府漁連]

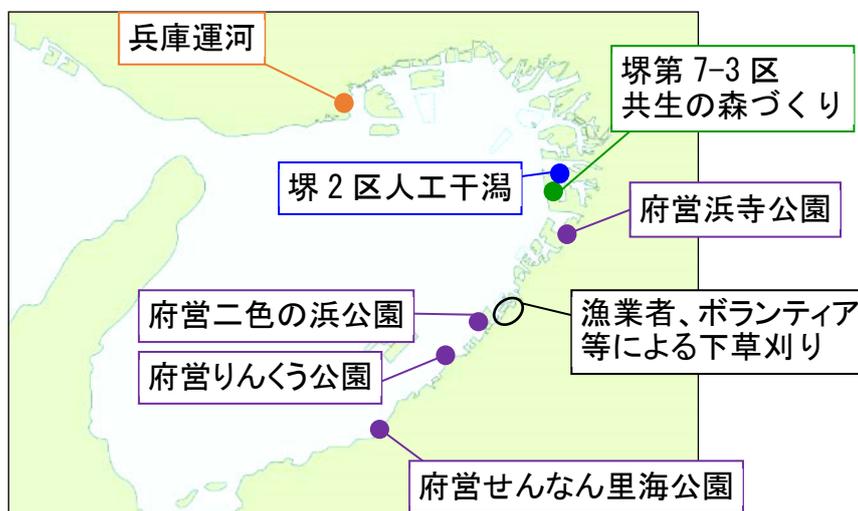


図 42 主な親水緑地の整備等実施場所

c. イベントの開催

- ▶ 親水空間等の活用、環境学習等のイベントの開催
 - ・四大湾（東京湾、伊勢湾、大阪湾、広島湾）の海の再生プロジェクトの成果や課題、教訓などを基に、全国の閉鎖性水域の再生プロジェクトに展開させることを目的とした『第17回海の再生全国会議』を関東にて開催。[近畿地方整備局港湾空港部]
 - ・小学校・幼稚園等を訪問し環境紙芝居、水質実験等による環境保全学習を実施。[第五管区海上保安本部]
 - ・岸和田市港緑町（岸和田市立浪切ホール）において魚庭（なにわ）の海づくり大会を実施。（来場者：約10,000人）[魚庭の海づくり実行委員会、大阪府]
 - ・水産試験場の研究員が日々の仕事を通して得た情報をわかりやすく解説する「大阪湾セミナー」のオンライン開催及びオンデマンド配信を実施。（参加者：90名）[大阪府]
 - ・せんなん里海公園において、小学4年生の生徒を対象に、生物や海岸について講演し生物観察・稚魚の放流等を継続実施。[大阪府、岬町教育委員会、(財)大阪府漁業振興基金、(財)大阪府公園協会、関西大学]
 - ・尼崎運河の水質浄化施設で市内の小中高生などを対象に環境学習会を継続実施。[兵庫県、尼崎市]

- ▶ フォーラム、環境学習会、コンクール等の開催（「d. 市民や企業の取り組みへの参画促進、取り組みの支援」の取り組みとしても実施）
 - ・「ほっといたらあかんやん！第19回大阪湾フォーラム」を開催予定(令和5年3月開催予定)。[神戸港湾空港技術調査事務所]
 - ・市民によるアコヤ貝育成を通じた水質保全活動に対する、神戸市の技術面等からの支援を継続実施。[兵庫運河・真珠貝プロジェクト]
 - ・海洋観測や栽培漁業の体験・プランクトン観察等、大阪湾の環境や水産資源の保全についての体験学習として「海の教室」を開催。[(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所]
 - ・海洋環境学習の開催等海洋環境保全啓発活動や未来に残そう青い海・図画コンクールを実施。[第五管区海上保安本部]
 - ・大阪湾かるたを作成し、大阪湾環境保全協議会構成各自治体において環境教育教材やイベントでの展示用として活用。[大阪湾環境保全協議会]
 - ・「大阪湾うみ・まちウォーク」を貝塚市で開催。[大阪府]
 - ・楽しみながら大阪湾の環境保全への理解を深めるエコツーリズムの推進の一環として、健康活動マイレージアプリ「アスマイル」と連携し、ウォーキングイベント「大阪湾魅力ウォーク with アスマイル」を開催。[大阪府]

- ・これからも守り続けたい大阪湾の魅力を発掘し、広く発信することにより大阪湾の環境保全の取り組みをより一層推進するため、フォトコンテストを開催。[大阪府]
- ・民間事業者と連携し、イベント会場等で海ごみ啓発等の環境学習を実施。[大阪府]

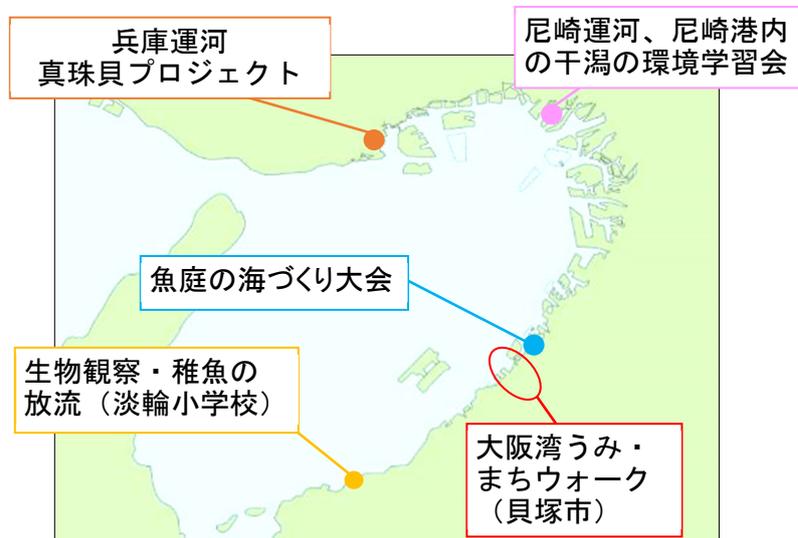


図 43 主なイベントの開催場所

- NPO団体、企業、学識者等との情報交換（「d. 市民や企業の取り組みへの参画促進、取り組みへの支援」の取り組みとしても実施）
 - ・大阪湾見守りネットのメーリングリストによる情報交換を実施。[近畿地方整備局]

d. 市民や企業の取り組みへの参画促進、取り組みの支援

➤ 環境学習会等の開催、情報発信

- ・「マザーレイクゴールズ (MLGs)」の推進のため、ワークショップ等の事業を開催。令和4年度は44事業を実施し2,362名の参加を得ている。(令和5年2月末現在) [マザーレイクゴールズ推進委員会、滋賀県]
- ・小学4年生を対象に全小学校で森林環境学習「やまのこ」を実施。[滋賀県]
- ・淡海こどもエコクラブ活動交流会を開催予定。[滋賀県]
- ・学習会「鴨川探検！再発見！」の継続実施。[京都府]
- ・「奈良県山の日・川の日」啓発キャンペーンの一環として、河川環境学習「川の学校」や様々な関連イベントを実施。また情報紙（かっぱ通信）の配布を実施。[奈良県]
- ・大和川クリーンキャンペーンとして絵・ポスター・作文・写真等のコンクールを開催。[近畿地方整備局]



図 44 マザーレイクゴールズ ロゴマーク 図 45 マザーレイクゴールズ
ワークショップの様子

写真提供：滋賀県

➤ 住民・NPO団体、企業等参加による河川環境改善

- ・「大和川清流復活ネットワーク」において、市町村や民間団体との情報共有を継続実施。[奈良県]
- ・水生生物調査やパネル展、水質改善強化月間 2023 等を実施し流域住民の水環境改善意識の向上を図る。[近畿地方整備局、奈良県、大阪府、流域市町村]

➤ 魚釣り等社会実験

- ・緑地の一部を魚釣り場として開放（舞洲：230m、咲洲海浜緑地：215m、鶴浜緑地：50m）。[大阪市]

- ▶ 多様な主体との連携による水質改善
 - ・大学等との連携による尼崎運河の水環境改善に係る実験・環境学習会を継続実施。
[徳島大学、兵庫県、尼崎市]
 - ・「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画に基づき、海洋プラスチックごみの削減や水環境の創造など、実行計画の施策を幅広く展開するため、ステークホルダーにアプローチを行い、ステークホルダー間の連携構築を実施。[大阪府、大阪市]

- ▶ NPO団体、企業、学識者等との情報交換
 - ・水辺環境の保全や再生に関する新しい知見を収集・蓄積・共有し、水辺環境の保全に資する取り組みを推進するために地域団体等が行う実践活動を支援。[兵庫県]

- ▶ 大阪湾の環境保全に向けた啓発動画の作成・展開
 - ・令和3年度に作成した子ども向け啓発動画「ハッピー・オオサカ・ベイベース」を用いて、各種環境イベントや河川流域協議会での啓発、市町村の出前授業、HP・SNSで積極的に情報発信を実施。[大阪府]

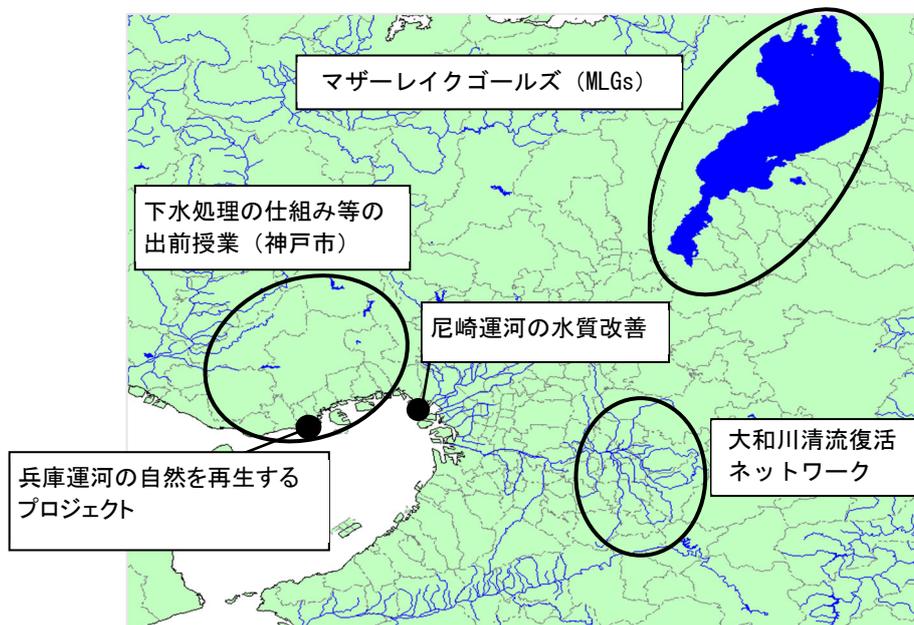


図 46 主な市民や企業の取り組みへの参画促進、取り組みの支援実施場所

2) 評価結果

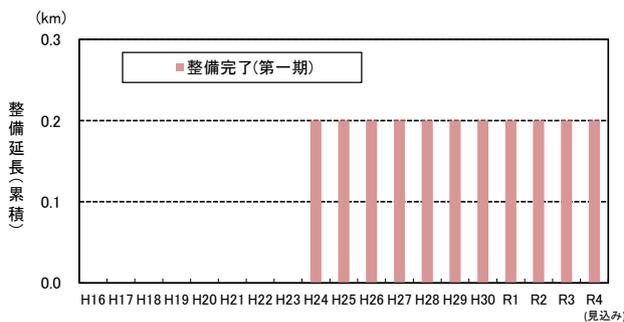
a. 砂浜、親水護岸の整備延長及び、親水緑地等の整備面積

- ・砂浜の累積整備延長は 0.2km、累積整備面積は 5.8ha（大阪湾再生行動計画策定以降）となっている。
- ・親水護岸の累積整備延長は 6.0km（大阪湾再生行動計画策定以降）となっている。
- ・親水緑地は令和 4 年度までに累積整備面積が 82.2ha（大阪湾再生行動計画策定以降）となっている。
- ・親水護岸、親水緑地においては第二期行動計画策定以降も継続して整備を実施している。

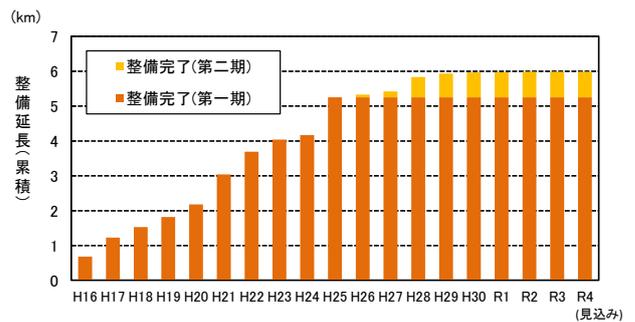


図 47 令和 4 年度の整備実施場所

【経年変化（砂浜、整備延長）】（累積）



【経年変化（親水護岸）】（累積）



【経年変化（親水緑地）】（累積）

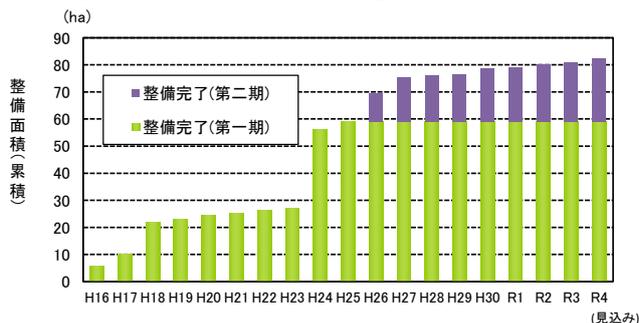


図 48 砂浜、親水護岸及び親水緑地の整備状況の経年変化

b. 親水施設への訪問者数

- ・親水施設訪問者数は、尼ロック（尼崎閘門）が800人（見込み）、とっとパーク小島が4,530人（見込み）等であった。

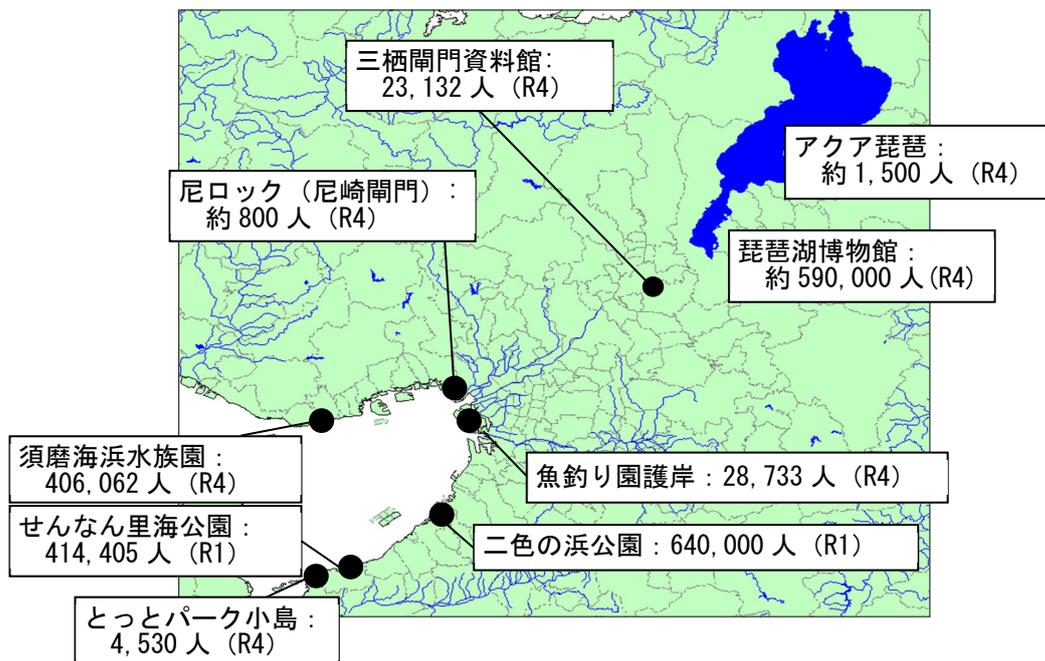


図 49 親水施設への主な訪問者数

c. イベントの開催状況

- ・令和4年度のイベントへの参加者は環境学習イベントが17,370人、森林整備イベントが10,935人、環境調査イベントが2,500人、清掃活動イベントが254,073人、その他のイベントが1,544人であった。
- ・令和4年度のイベントの開催回数は、環境学習イベントが360回、森林整備イベントが578回、環境調査イベントが40回、清掃活動イベントが4,604回、その他のイベントが15回であった。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になったイベントもあるが、感染対策を実施しながら開催した。

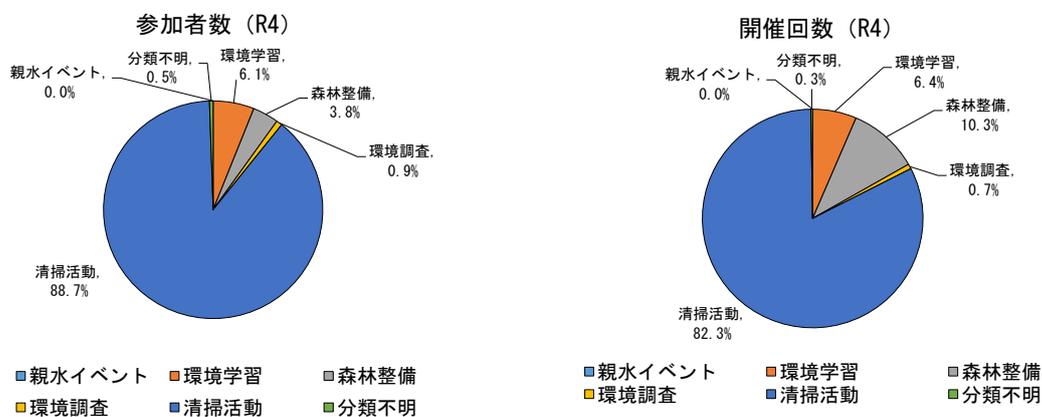


図 50 令和4年度のイベント参加者数、開催回数

(3) 豊かな「魚庭（なにわ）の海」

<取り組みの状況>

▶ 藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備

堺 2 区人工干潟において環境変化の推移調査を実施/キジハタ等の稚魚の放流/環境創造型護岸におけるブルーカーボン生態系のモニタリング調査/新島（大阪港）において緩傾斜護岸の整備/兵庫運河でアマモの移植等を実施

▶ 窪地の埋め戻し

阪南 2 区沖窪地に港湾（高松港）の発生土砂及び武庫川の河川土砂の投入を実施。阪南 4, 6 区沖窪地に大阪港北港南地区航路、堺泉北港汐見地区及び和歌山下津港の発生土及び武庫川の河川土砂の投入を実施/大阪湾における海域環境の改善に寄与することを目的に、「大阪湾海域環境支援協議会」で具体的かつ効果的な施策検討を実施

▶ モニタリングの充実

大阪湾生き物一斉調査、漁場環境、河川・海域における魚類・底生生物等の生息状況調査の実施/事業実施箇所（堺浜自然再生ふれあいビーチ）における調査の実施/ホームページや発表会等によるモニタリング結果の情報発信を実施

▶ その他

里海創生への支援、海底耕耘、ため池の池干し（かいぼり）、大阪湾沿岸部で水質調査結果のデータ解析及び稚魚の種苗生産・放流等を実施/下水処理施設における栄養塩類管理運転の推進

<評価結果>（水質データは年変動が大きいことから 5 年平均値を採用）

- 底層 DO については、湾奥部において、夏季に 5mg/L 未満の海域がみられる。
- 底生生物の生息状況については、種類数及び個体数ともに、湾央部から湾口部で増加傾向を示している地点がみられる。
- 海岸生物については、大阪湾生き物一斉調査により、647 種(水生生物群 489 種、陸生生物群 158 種)が確認され、貴重種は 84 種が確認された。

<取り組みの成果>

- 湾奥部では、貧酸素状態がみられ、底生生物の種類数も少ないため、今後のさらなる取り組み推進が必要である。
- 底生生物の種類数及び個体数について改善傾向がみられる海域があるものの、さらなる取り組み推進が望ましい。

1) 取り組みの状況

a. 藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備

- 親水空間・生物の生息空間確保のための人工干潟整備
 - ・堺2区人工干潟の環境の変化の推移を調べるため、環境調査を実施。[大阪府]

- 藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備及び調査等
 - ・関西国際空港島周辺海域の採捕禁止区域付近で、キジハタ等の稚魚の放流を実施。[大阪府]
 - ・神戸市環境基本計画に基づく環境創造型護岸におけるブルーカーボン生態系のモニタリング調査（令和5年2月）およびCO₂吸収量の定量的評価を実施予定。[神戸市]
 - ・新島（大阪港）において緩傾斜護岸の整備を継続実施。[大阪湾広域臨海環境整備センター、近畿地方整備局]
 - ・阪南2区人工干潟での生物モニタリング調査の継続実施。[ちきりアイランドまちづくり会]
 - ・国指定浜甲子園鳥獣区保全事業は終了したが、保護区における施設の維持管理を実施。[環境省]

- 兵庫運河の自然を再生するプロジェクト
 - ・兵庫運河において漁協・地元・NPO・行政が連携・協働し、アマモの移植・モニタリング、竹・柴漁礁の実験設置、稚魚の放流等を実施。[神戸市、兵庫運河を美しくする会、兵庫漁業協同組合など]

- 「豊かな大阪湾」環境改善モデル事業の実施（再掲）
 - ・湾奥部における水質面や生物の生息に適した場が少ないなどの課題の解決に向けた技術開発を目的に、モデル設備等を試験的に設置又は運用する民間事業者等への補助事業を実施。令和3年度採択事業のモニタリング継続。[大阪府]

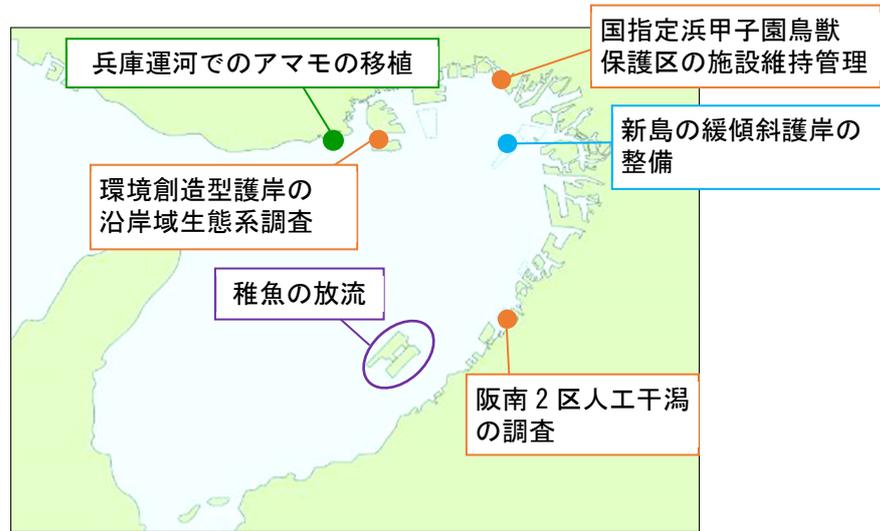


図 51 藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備実施場所



写真提供：近畿地方整備局



写真提供：神戸市

図 52 新島の緩傾斜護岸

図 53 運河水面の新たな活用（兵庫運河）

b. 窪地埋め戻し

▶ 海底浚渫窪地における環境改善

- ・大阪湾における海域環境の改善に寄与することを目的に、港湾工事から発生する浚渫土砂を埋戻し用材として有効活用し、平成 23 年度より阪南 2 区沖窪地を対象に本格的に埋め戻しの着工を開始。また、令和 3 年度には阪南 4・6 区沖窪地の埋戻しにも着工を開始。[近畿地方整備局港湾空港部]
- ・学識経験者を含めた関係者等による検討会を設置し、埋め戻しによる施工技術や周辺環境配慮についての技術的検討を実施。[近畿地方整備局港湾空港部]
- ・令和元年度に国・地方公共団体等が連携・協力体制を強化するため、「大阪湾海域環境支援協議会」を設立し、具体的かつ効果的な施策検討を実施。令和 2 年度からは陸上建設発生土を窪地修復に有効活用するにあたり、必要な品質を十分に確保するためのマニュアルを作成。[近畿地方整備局港湾空港部、大阪府、堺市]
- ・令和元年度からは四国地方整備局管内の高松港より発生する浚渫土砂を受け入れ、近畿地方整備局管内にとどまらず広域的な土砂の受け入れを実施。また、兵庫県の武庫川河床掘削から発生する良質な土砂を覆砂材として受け入れを実施。[近畿地方整備局港湾空港部、大阪府、堺市]
- ・令和 4 年度の埋戻し用材として、阪南 2 区沖においては高松港、武庫川からの発生土砂の受け入れを実施。また、阪南 4・6 区においては大阪港、堺泉北港及び和歌山下津港からの発生土砂の受け入れを実施。[近畿地方整備局港湾空港部、大阪府、大阪港湾局（大阪港、堺泉北港）、和歌山県（和歌山下津港）]

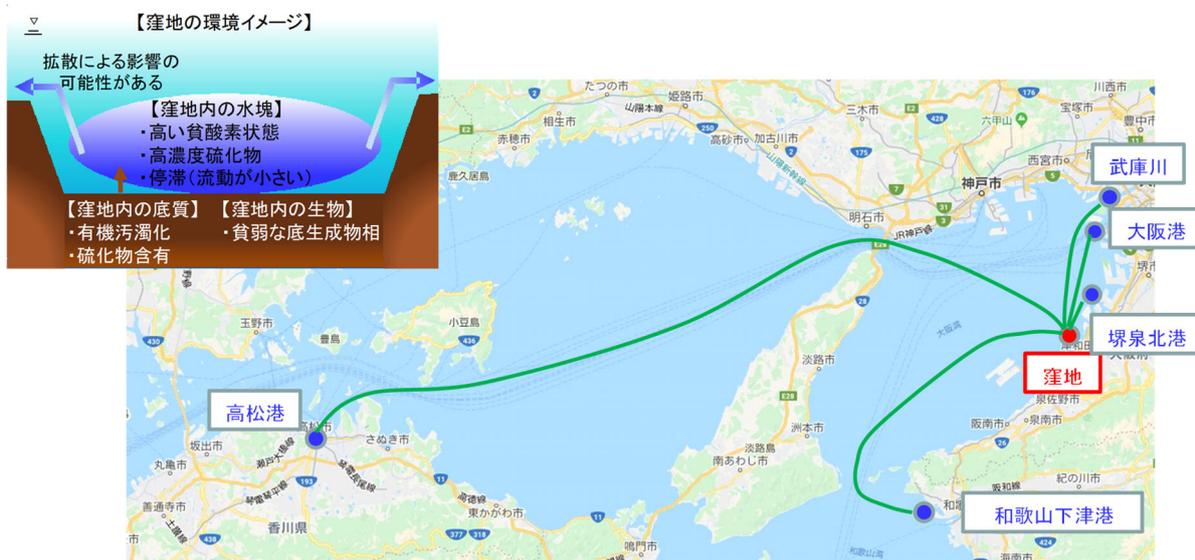
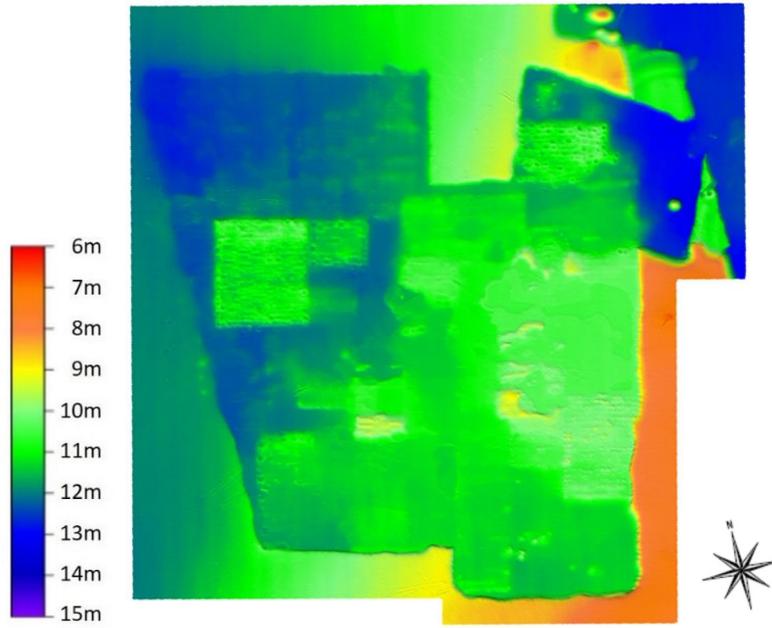


図 54 令和 4 年度の埋め戻し受け入れ場所



図提供：近畿地方整備局港湾空港部

図 55 水深図（測量日：令和 5 年 1 月 19、20 日）

c. モニタリングの充実（「(1) 美しい魚庭の海」の取り組みとしても実施）

➤ 大阪湾生き物一斉調査

- ・令和4年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため規模を縮小して大阪湾生き物一斉調査を、25地点で1,134人が参加して実施。[大阪湾環境再生連絡会]

表 1-2 大阪湾生き物一斉調査の実施状況

■行動計画期間（第一期）

	第1回 (H20)	第2回 (H21)	第3回 (H22)	第4回 (H23)	第5回 (H24)	第6回 (H25)
地点数	15	15	17	18	21	23
団体数	11	14	16	18	20	22
参加人数	467	666	792	931	1,328	1,375

■行動計画期間（第二期）

	第7回 (H26)	第8回 (H27)	第9回 (H28)	第10回 (H29)	第11回 (H30)	第12回 (R1)	第13回 (R2)	第14回 (R3)	第15回 (R4)
地点数	22	24	26	25	26	24	17	19	25
団体数	20	24	26	28	34	31	18	21	28
参加人数	1,244	1,277	1,080	1,098	1,306	1,090	401	712	1,134



写真提供：近畿地方整備局

図 56 大阪湾生き物一斉調査の様子

➤ 漁場環境に係る調査

- ・大阪湾に設定した調査定点において定期的な観測を実施。[(地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所]
- ・紀伊水道、瀬戸内海において10地点で漁場環境の定期的な調査を実施。[兵庫県]
- ・瀬戸内海の重要水族の資源生態の把握のために10地点で調査 [兵庫県]
- ・10地点で赤潮予察調査を実施し、調査結果をHP等で情報提供。[兵庫県]

➤ 水生生物に係る調査

- ・石津川及び市周辺の海域について、魚類、底生生物などの生息状況を概ね5年に1度確認。[堺市]
- ・令和2年度に造成した兵庫運河の「あつまれ生き物の浜」において3ヶ年にわたってモニタリング調査を実施。[近畿地方整備局港湾空港部]



写真提供：近畿地方整備局港湾空港部

図 57 兵庫運河干潟について

➤ 地域住民等と協働による河川水質・生物調査

- ・小中学校等と協働した水生生物調査の実施。[近畿地方整備局]



写真提供：近畿地方整備局

図 58 小中学校等と協働した水生生物調査の様子

- 事業実施箇所におけるモニタリング調査
 - ・堺浜自然再生ふれあいビーチにおいて水質等調査を実施。[堺市]
- ホームページ等による情報発信
 - ・各調査結果をホームページ等で公開。[国、各自治体など]
 - 例：大阪湾環境データベース
(<http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/>)



図 59 ホームページ等による情報公開
(左：大阪湾環境データベース、右：大阪湾生き物一斉調査)

d. その他

- 里海創生への支援
 - ・ウェブサイト「里海ネット」の運営継続、内容の充実。[環境省]
- 海底耕耘
 - ・海底環境を改善するため、海底耕耘を7つの組織（神戸市1、淡路市4、洲本市2）で継続実施。[漁業者組織（神戸市、洲本市、淡路市）]
- ため池の池干し（かいぼり）
 - ・ため池の適正な維持保全と浅場への栄養塩供給を目的とした、漁業者と農業者の連携によるため池の池干し（かいぼり）を2箇所で開催実施。[漁業者組織（淡路市）]

- データ解析
 - ・大阪湾沿岸部で水質調査結果の解析、深掘り跡での水質・底質・底生生物調査を実施。[神戸港湾空港技術調査事務所]

- 稚魚放流等
 - ・大阪湾の中高級魚介類資源を増やすため、ヒラメ、キジハタ、アカガイ、トラフグ等の種苗生産・放流を実施。[大阪府、大阪府漁業振興基金]
 - ・水産資源の維持増大のため、マダイ、ヒラメ、オニオコゼ、マコガレイ、クマエビ、ガザミ等の種苗生産、放流を実施 [兵庫県、神戸市、洲本市、淡路市、漁業関係団体]



写真提供：兵庫県

図 60 海底耕耘に用いる桁とその様子



写真提供：大阪府

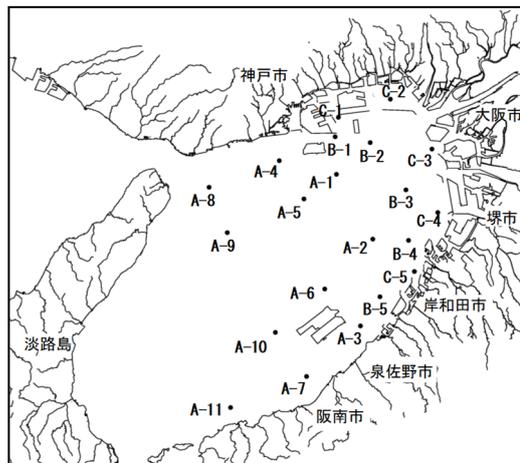
図 61 稚魚放流

- 栄養塩管理運転の推進
 - ・海域の貧栄養への対策として下水処理施設において放流水中の窒素濃度を規制の範囲で増加させる栄養塩管理運転を4施設で実施。[兵庫県、神戸市、洲本市、淡路市]

2) 評価結果

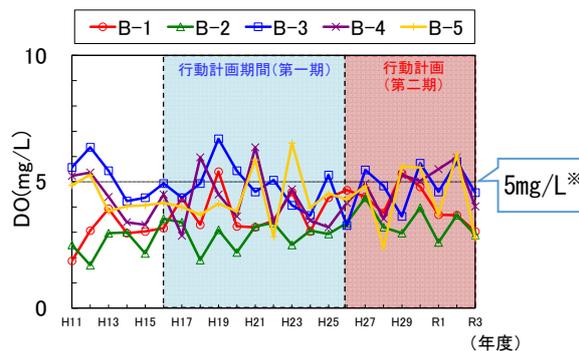
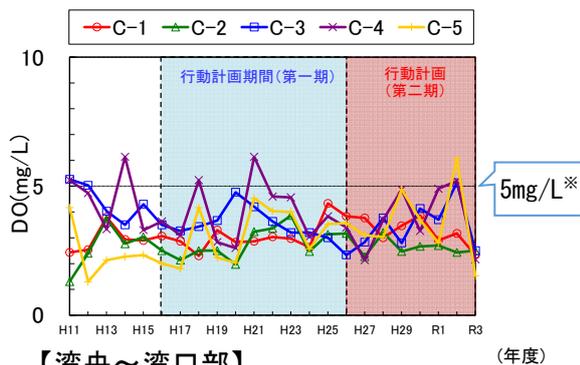
a. 底層 D0

- ・夏季（6～8月）の経年変化を見ると、年による変動があるものの、全体的には概ね横ばいで推移している。
- ・再生行動計画前と現在の水平分布図（公共用水域水質測定結果による5年平均）を比較すると、夏季は5mg/L未満の海域に大きな変化はないが、六甲アイランド周辺に3mg/L未満の海域がみられなくなっている。冬季では、海域全体で5mg/L以上となっている。

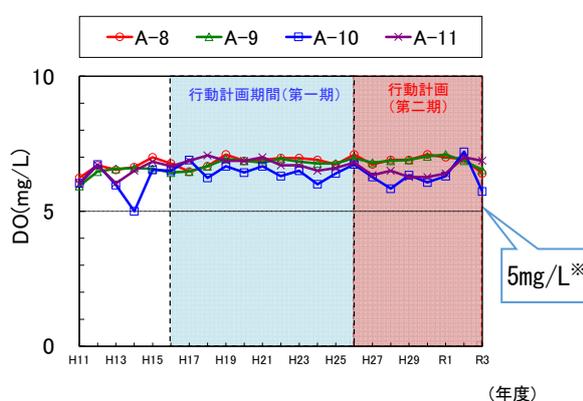
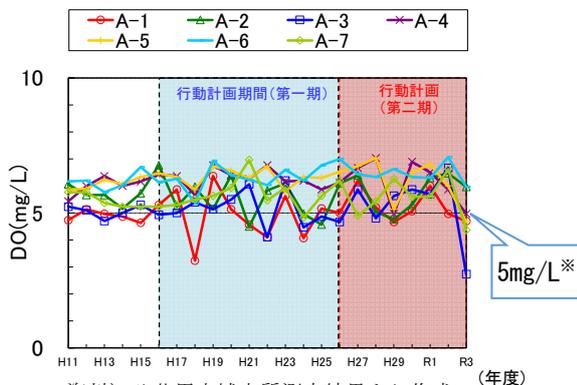


【海域別経年変化 夏季（6～8月平均）】

【湾奥部】



【湾央～湾口部】



資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※評価指標値の目安：海底の生物が十分棲める底層のD0を5mg/L以上として設定した

※環境基準の底層D0の測定位置である海底から1mで測定しているデータのみを、大阪府及び兵庫県の公共用水域水質データから引用した。

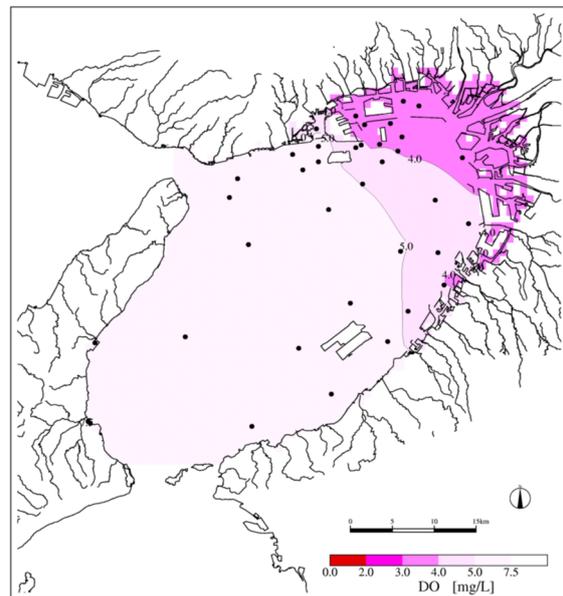
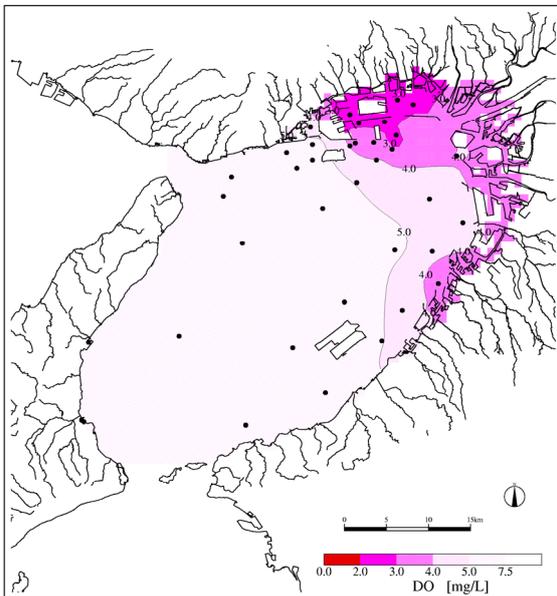
図 62 底層D0の経年変化（夏季（6～8月平均））

【参考】水平分布図（DO）※

・ 公共用水域水質測定結果による夏季（6～8月）5年平均

＜再生行動計画前（平成11～15年度）＞

＜第二期行動計画前（平成21～25年度）＞

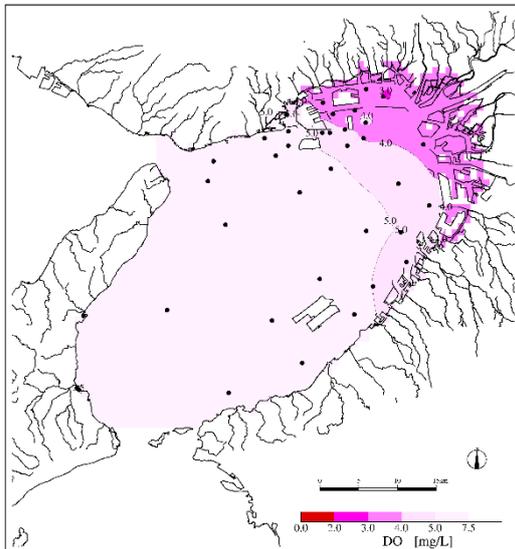


※兵庫県は海底から1mの地点、大阪府は海底から2mあるいは5m地点の水質データを用いて、水平分布図を作成している。
 ※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

【水平分布図（底層DO）】

・ 公共用水域水質測定結果による夏季（6～8月）5年平均※

＜現在（平成29～令和3年度）＞



資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※底層DOのデータは大阪府、兵庫県ともに環境基準に合わせて海底から1mで測定しているデータを使用している。

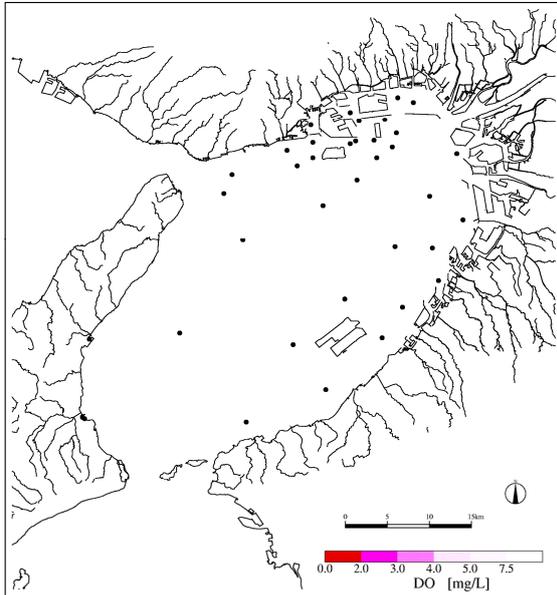
※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

図 63 底層DOの水平分布（夏季5年平均※）

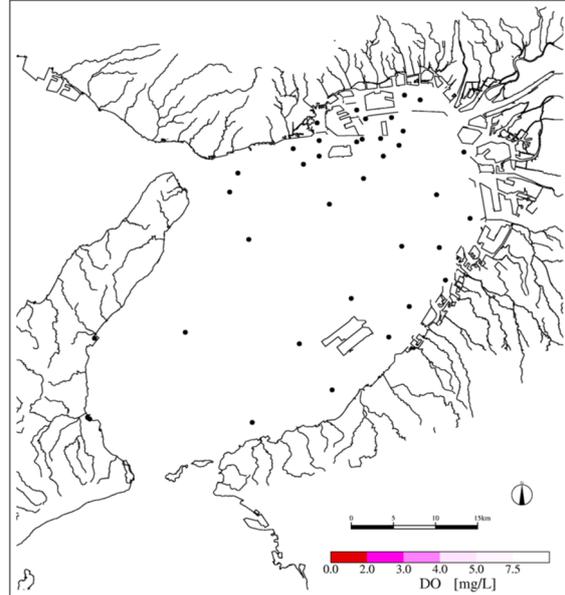
【参考】水平分布図（DO）※

・ 公共用水域水質測定結果による冬季（12～2月）5年平均

＜再生行動計画前（平成11～15年度）＞



＜第二期行動計画前（平成21～25年度）＞

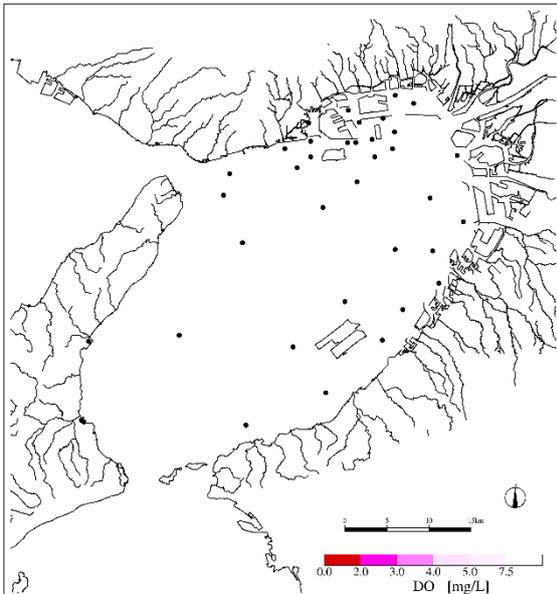


※兵庫県は海底から1mの地点、大阪府は海底から2mあるいは5m地点の水質データを用いて、水平分布図を作成している。
※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

【水平分布図（底層DO）】

・ 公共用水域水質測定結果による冬季（12～2月）5年平均※

＜現在（平成29～令和3年度）＞



資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※底層DOのデータは大阪府、兵庫県ともに環境基準に合わせて海底から1mで測定しているデータを使用している。

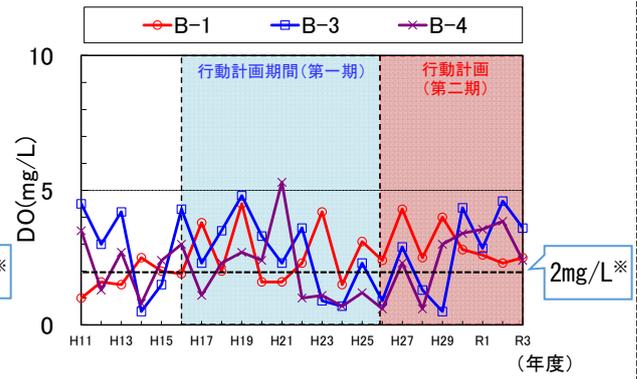
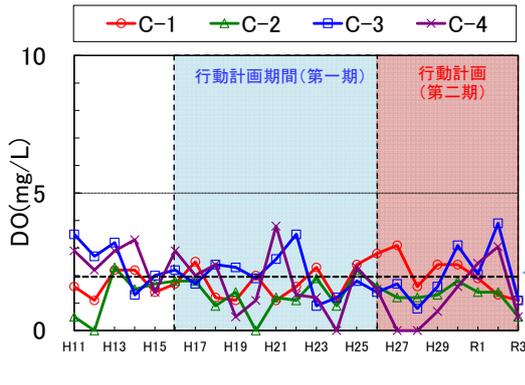
※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

図 64 底層DOの水平分布（冬季5年平均※）

参考

【経年変化図 年間最低値】

より沿岸に近い地点 (C-1~C-4) よりも沿岸から離れた地点 (B-1、B-3~B-4) の方が、近年になるにつれて 2mg/L 以上である年が多くなっている。



資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※評価指標値の目安: 「底層溶存酸素量に係る環境基準の水域類型の指定について(第2次答申)(令和4年10月, 中央環境審議会)」において、大阪湾奥部(水深15m付近以浅、ただし、水生生物保全環境基準の生物特A類型を除く。)で類型指定された生物3類型の基準値 2.0mg/L とした。

※海底から1mで測定しているデータのみを、大阪府及び兵庫県の公共用水域水質測定結果から引用した。

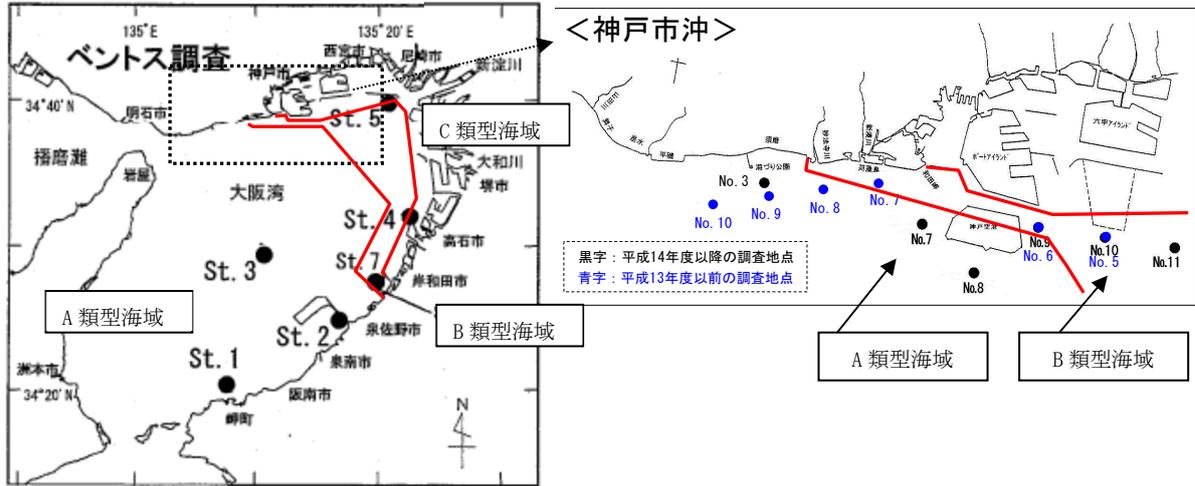
参考図 底層 DO の経年変化 (年間最低値)

類型	水生生物が生息・再生産する場の適応性	基準値
生物1類型	生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域	4.0mg/L 以上
生物2類型	生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域	3.0mg/L 以上
生物3類型	生息段階において貧酸素耐性の高い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域、再生産段階において貧酸素耐性の高い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域又は無生物域を解消する水域	2.0mg/L 以上

b. 底生生物（種類数）

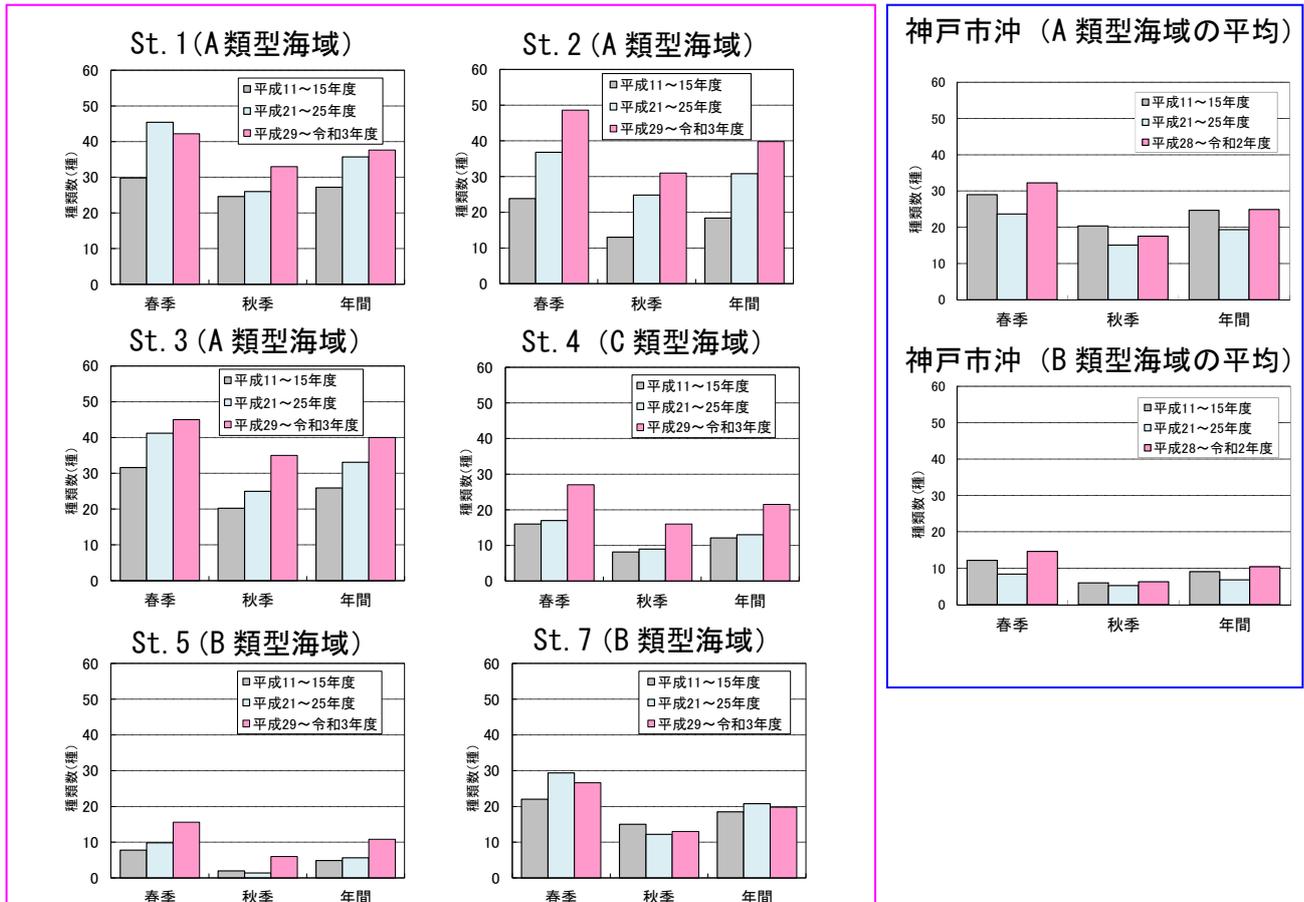
- ・種類数については、湾奥部（B・C類型海域）で少なく、湾央～湾口部（A類型海域）で多い傾向がみられる。再生行動計画前と比較すると、湾奥部（B・C類型海域）では春季で若干の増加がみられる地点があり、湾央～湾口部（A類型海域）では種類数の増加がみられる。

【変化図（底生生物・種類数）】



(大阪府域)

(兵庫県域)



資料) 漁場環境調査 生物モニタリング調査 (地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター) 環境水質 海域の水生生物調査 (神戸市環境局)

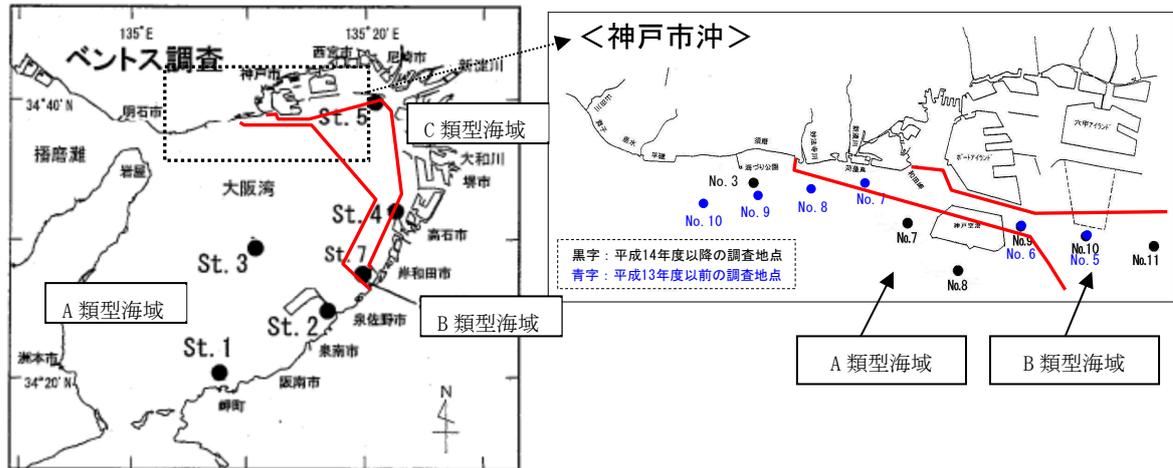
※神戸市沖：約 0.1～0.13m² (H21、H25、H27～H28、H30、R2 は約 0.15m²) 当たりの種類数、大阪府域：0.1m² 当たりの種類数
 ※兵庫県域では平成 29 年度、令和元年度、令和 3 年度に底生生物調査を実施していない。

図 65 底生生物の変化（種類数）

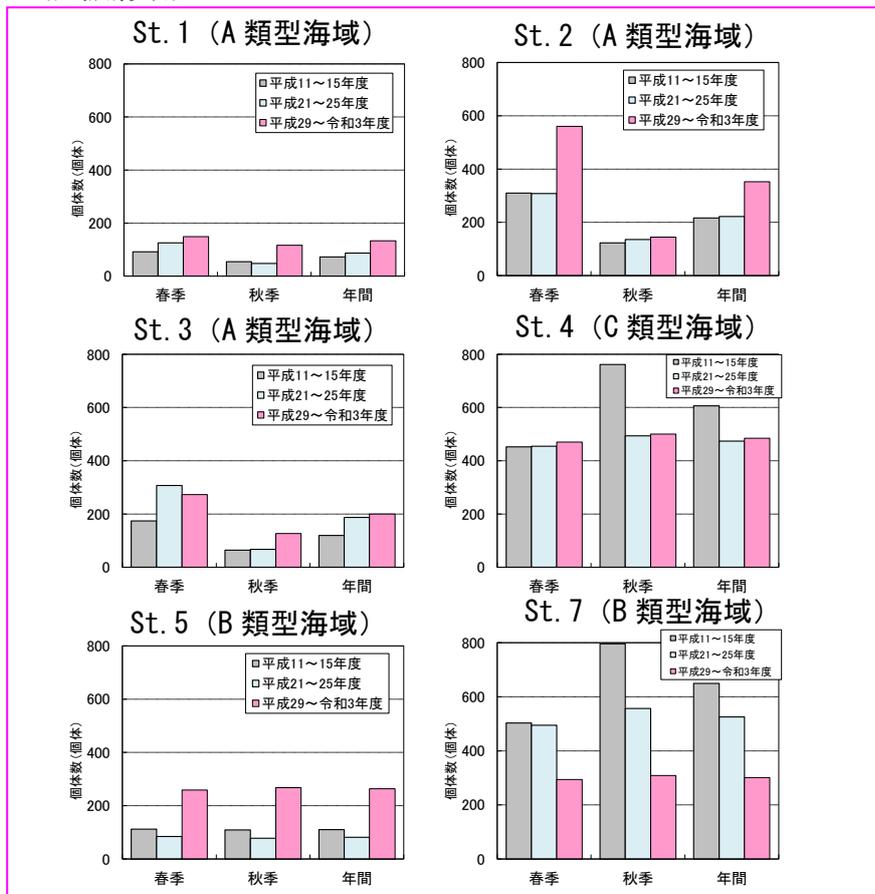
c. 底生生物（個体数）

- ・個体数については、湾奥部（B・C類型海域）の東側の地点（St. 4、7）で多い傾向がみられる。再生行動計画前と比較すると、湾奥部（B・C類型海域）のSt. 5以外は横ばいまたは減少傾向がみられ、大阪府域の湾央～湾口部（A類型海域）では横ばいまたはやや増加傾向がみられる。

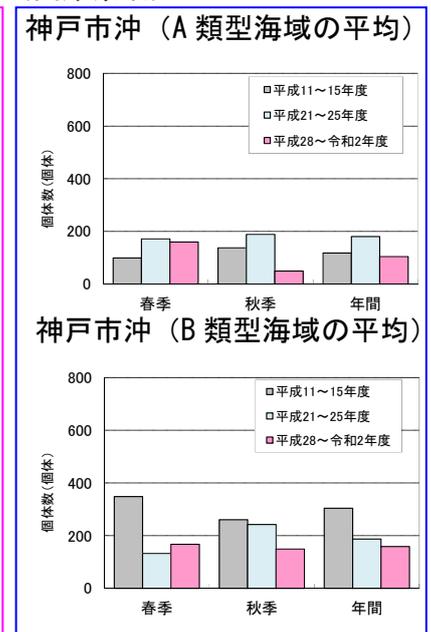
【変化図（底生生物・個体数）】



(大阪府域)



(兵庫県域)



資料) 漁場環境調査 生物モニタリング調査 ((地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター)

環境水質 海域の水生生物調査 (神戸市環境局)

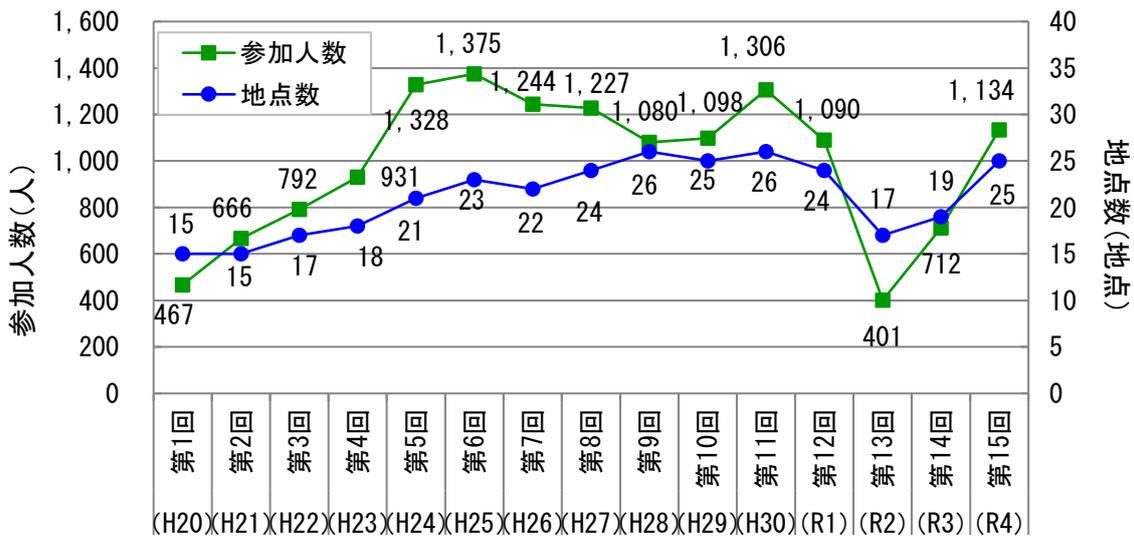
※神戸市沖: 約 0.1~0.13m² (H21、H25、H27~H28、H30、R2 は約 0.15m²) 当たりの個体数、大阪府域: 0.1m² 当たりの個体数

※兵庫県域では平成 29 年度、令和元年度、令和 3 年度に底生生物調査を実施していない。

図 66 底生生物の変化 (個体数)

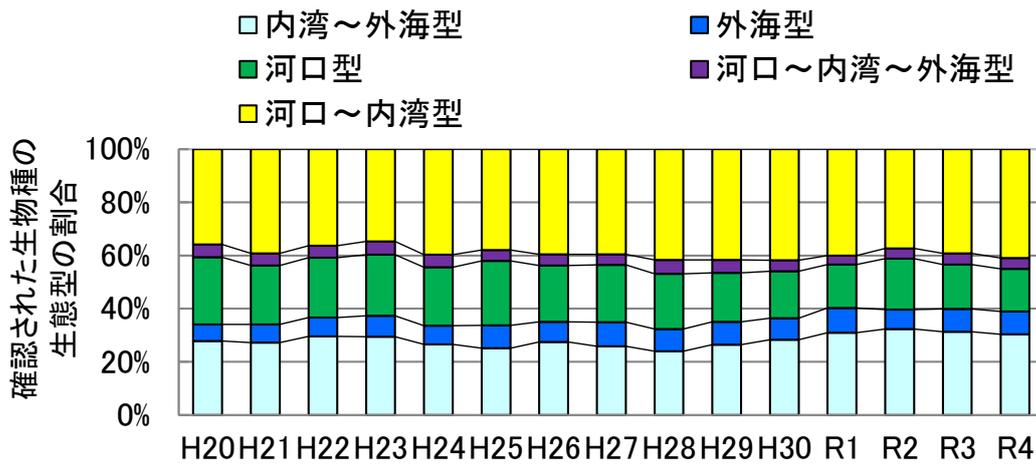
d. 海岸生物

- ・大阪湾生き物一斉調査で確認した種名まで判別したのは 647 種であり、(水生生物群 489 種、陸生生物群 158 種)、そのうち貴重種は 84 種であった。
- ・全体的に河口～内湾型や内湾～外海型の種の出現頻度が高く、ユビナガホンヤドカリは 24 地点中 20 地点、マガキも 20 地点で確認された。内湾～外海型の生物ではイボニシが 20 地点、ヒライソガニ及びタマキビガイが 17 地点、アナアオサが 16 地点、イソガニが 14 地点で確認され、河口型の生物ではタカノケフサイソガニが 11 地点、ケフサイソガニが 13 地点で確認された。



※スナメリ調査の 1 地点を含む。

図 67 大阪湾生き物一斉調査実施状況



※第 1 回の調査以降実施していない地点を除く。

図 68 調査シート掲載種の生態型の確認状況

e. 藻場、干潟、浅場の整備面積及び緩傾斜護岸等の整備延長

- ・藻場の累積整備面積は 40.1ha（大阪湾再生行動計画策定以降）となっている。
- ・干潟の累積整備面積は 1.3ha（大阪湾再生行動計画策定以降）となっている。
- ・浅場の累積整備面積は 2.4ha（大阪湾再生行動計画策定以降）となっている。
- ・緩傾斜護岸の累積整備延長は 3.6km（大阪湾再生行動計画策定以降）となっている。

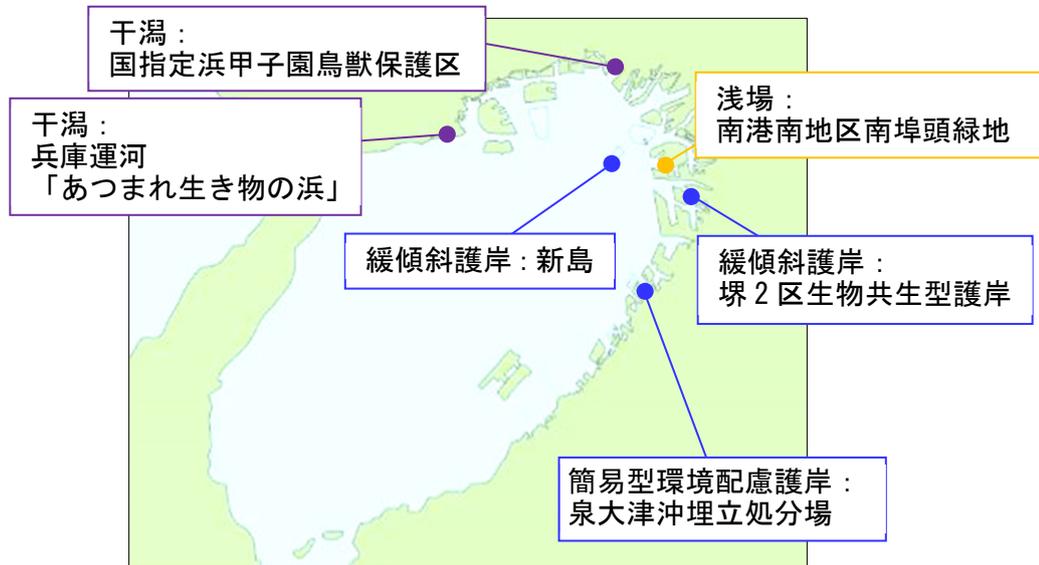


図 69 大阪湾再生行動計画策定以降の整備実施場所

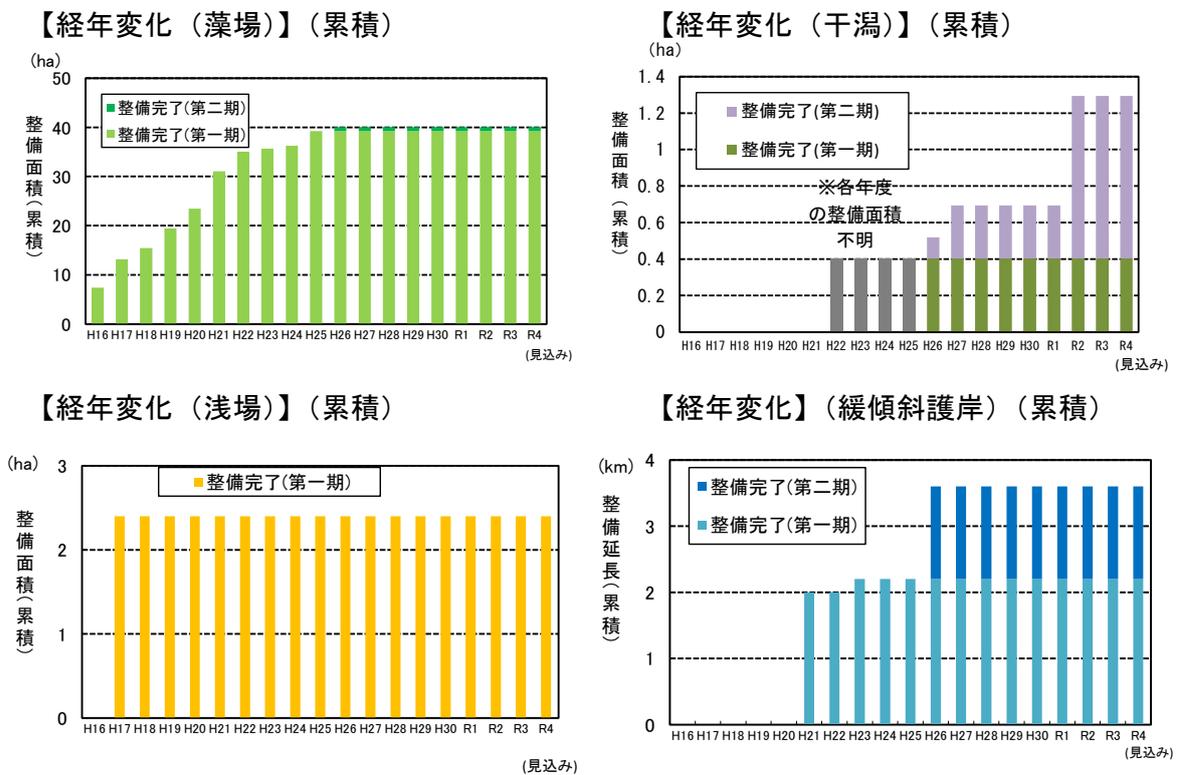


図 70 藻場、干潟、浅場及び緩傾斜護岸の整備状況の経年変化

2. 令和4年度の重点的な取り組みの成果

(1) 夏季底層DO改善対策強化等

- 窪地の埋め戻し推進のため、令和4年度は阪南2区沖窪地に港湾（高松港）の発生土砂及び武庫川の河川土砂の受け入れを実施。また、阪南4・6区沖窪地においては、港湾（大阪港北港南地区航路、堺泉北港汐見地区、和歌山下津港）の発生土砂及び武庫川の河川土砂の投入を実施している。

(2) 学校教育等との連携

- 大阪湾再生行動計画における官民連携の取り組みを推進するため、次世代を担う高校生を対象とした「大阪湾ベ이스クール」を12月17日（土）に開催。高校生の大阪湾に対する認識、関心等を把握するため、NPOや漁業者にも協力いただき、多様な関わりの中で大阪湾（神戸港）での体験乗船を、2校に実施。
- 大阪湾フォーラムを令和5年3月19日（日）にせんなん里海公園にて開催予定。大阪湾ベ이스クールの参加校も参加予定。
- これからの若い世代の育成と活躍の場の確保に向けて、学校教育への環境学習を取り込むため、今年度の海域グループ会議では、神戸市教育委員会より兵庫運河でのアマモ生育に関する環境学習に関する取り組みを紹介いただいた。



写真提供：近畿地方整備局港湾空港部

図 71 「大阪湾ベ이스クール」の様子

(3) 新たな主体への働きかけ

- 官民連携の強化の一環として、民間企業等と連携・協働した広報、情報発信の方策である「大阪湾再生巡回展」を商業施設3箇所（イオンモール茨木、エコール・ロゼ、ガーデンモール木津川）で開催した。

連携・協働の拡充の基本方針

- 大阪湾再生行動計画（第二期）では、『大阪湾の環境の改善に向けて、森・川・里・都市・海等の取り組みの輪を広げ、効率的・効果的な取り組みの推進を図り、大阪湾の再生とともに新しい大阪湾の創出を目指す。』ことを理念としている。
- 第二期計画をより推進していくためには、大阪湾集水域の森・川・里・都市・海で生活し、活動する様々な団体や個人と連携・協働して取り組みを進めていくことが必要である。
- このためには、これまでに連携・協働してきた団体に加え、広大な大阪湾集水域の各地で活動する**多様な主体との連携を促進・拡充する。**

連携・協働の拡充の対象：大阪湾再生推進会議との連携・協働する多様な主体

住民・NPO等の団体

民間企業・業界団体等

学識者・研究機関・大学

- これまでに連携が不十分であった民間企業との連携を模索する。

民間企業との連携・協働の実施内容

ステップ①『キックオフ』：大阪湾再生行動計画や大阪湾の現状・課題に対する認識・知識を高める H29～

ステップ②『体験活動』：大阪湾再生の取り組みを協働で実行・体験・経験する。 R1～

ステップ③『大阪湾再生の行動』：企業や社員個人が出来る取り組みの実行(企業 CSR)に発展させる。

民間企業との連携の具体的な行動の方針

- ・『ステップ①』として、民間企業との協働のキックオフとなる情報発信の取り組みとして、民間集客施設等で大阪湾再生巡回展を平成29年度より実施（令和3年度も3ヶ所で開催）

ステップ②：『体験活動』：大阪湾再生の取り組みを協働で実行・体験・経験する。

- ・子供も大人も一緒に参加でき、大阪湾の現状や課題に気づき、水質改善、生物多様性の保全、ごみ対策等の環境保全意識を高められる体験活動とする。
- ・官民連携の体験活動の実施に向けて、令和元年度にヒアリングを実施した企業やCSR活動を積極的に実施している企業等を中心として、企業の取り組みへの参加または大阪湾再生の取り組みへの企業の参加等に向けて検討・調整を行う。

(4) その他

- Jブルークレジットについて、大阪湾では昨年度に続いて「兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり」に発行されたほか、新たに「神戸空港島緩傾斜護岸におけるブルーカーボン創出活動」、『～魚庭の海・阪南の海の再生「海のゆりかご再生活動」』、「関西国際空港 豊かな藻場環境の創造」の3件が発行された。大阪湾内の4件合計で118.0t-CO₂となった。大阪湾周辺では『明石市江井島周辺を中心とした藻場造成「アマモは海のゆりかごだ！」プロジェクト』にて、6.4t-CO₂が発行された。
- 大阪湾の環境改善や干潟・藻場等の整備等の大阪湾再生の取り組みにより、大阪湾に新たに定着あるいは分布範囲の拡大を期待する海岸生物の生物種を選定し、「大阪湾海岸生物ウェルカムリスト（無脊椎動物・海藻・海草、2022年版）」（大阪湾環境再生連絡会）を作成・公開した。

アピールポイントでの活動状況

(1) アピールポイントの設定状況

設定したアピールポイントを図 72 に、アピールポイントに含まれるエリア、親水施設等を表 3-1 に示す。

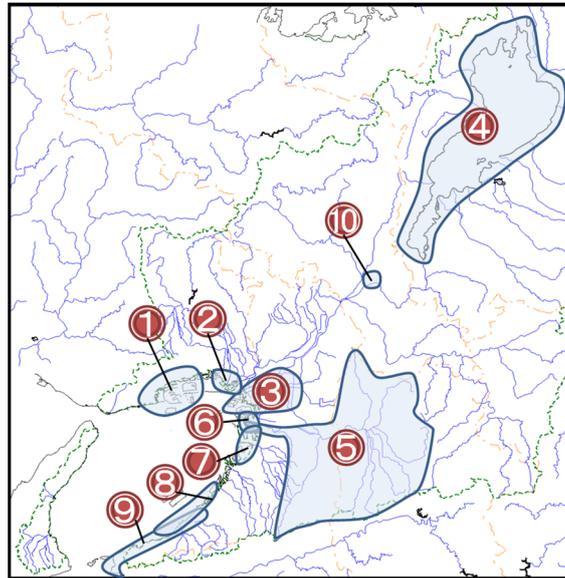


図 72 アピールポイント

表 3-1 アピールポイントに含まれるエリア及び親水施設等

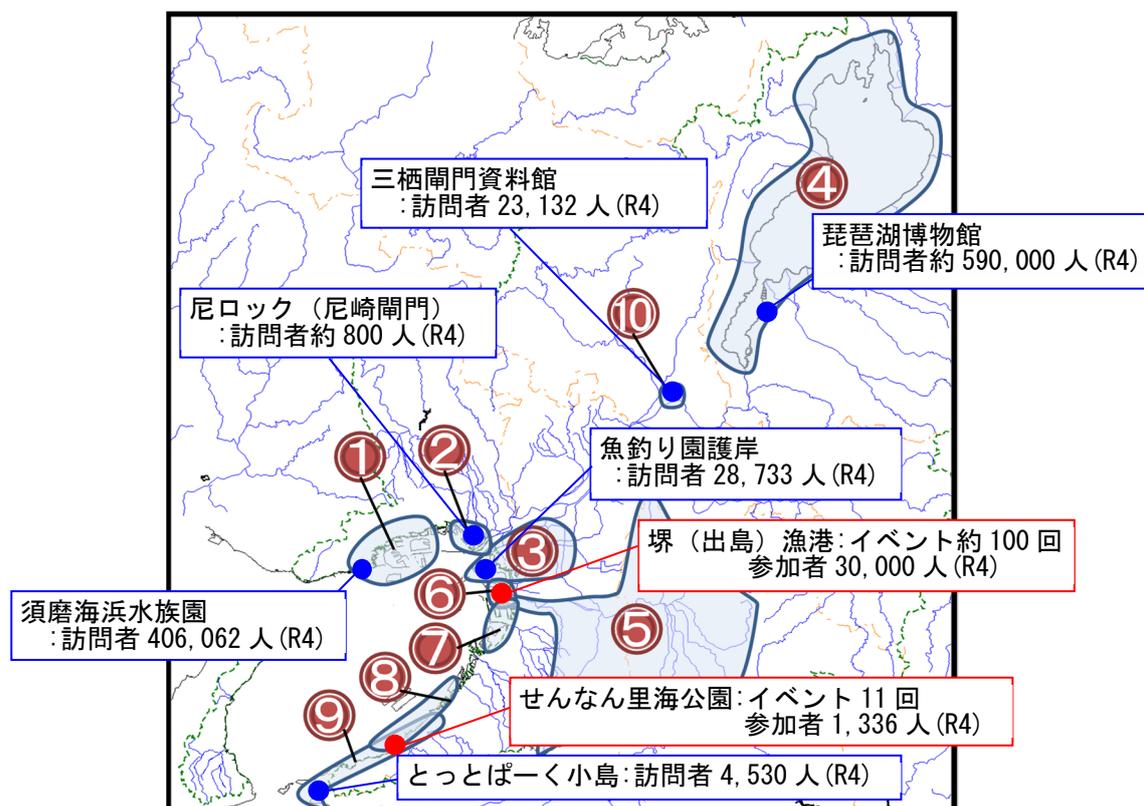
アピールポイント	アピールポイントに含まれるエリア	親水施設等
① 潮風かおる港町神戸	須磨海岸、兵庫運河、ハーバーランド～HAT神戸、ポートアイランド、神戸空港	須磨海岸、須磨海水浴場、須磨ドルフィンコースト、神戸ポートタワー、神戸空港人工海水池など
② 水に親しみ学べる尼崎・西宮の海辺	尼崎運河周辺、甲子園浜周辺	水質浄化施設、尼ロック（尼崎閘門）防災展示室、県立甲子園浜海浜公園など
③ まちなかで水に親しめる水都大阪の水辺・海辺	中之島、舞洲～夢洲、咲洲	中之島公園、人工磯、サンタマリア（周遊船）、野鳥園臨海緑地
④ 豊かな自然と歴史を感じられる琵琶湖	琵琶湖	アクア琵琶、琵琶湖博物館、水泳場・マリナーなど
⑤ 市民が参加した川づくりが進む大和川	大和川流域（大和川本川・支川）	佐保川水辺の楽校（佐保川小学校前）、大安寺河川公園（大安寺西小学校前）、佐保せせらぎの里（奈良県法蓮町）など
⑥ 海に親しめる多様な場がある堺の海辺	堺浜、堺旧港	堺浜自然再生ふれあいビーチ、堺2区生物共生型護岸、堺旧港など
⑦ 海の恵みを楽しめる堺・高石の漁港	堺（出島）漁港、高石漁港	堺（出島）漁港、高石漁港
⑧ 海水浴やマリネジャーが楽しめる阪南・泉南の海岸	二色の浜、せんなん里海公園	二色の浜公園、海浜緑地（ジャリ浜）、さとうみ磯浜、箱作海水浴場、せんなん里海公園、淡輪海水浴場など
⑨ 海の恵みを楽しめる泉南の漁港	佐野漁港、田尻漁港、岡田漁港、樽井漁港、西鳥取漁港、下荘漁港、深日漁港、小島漁港、加太漁港	佐野漁港、田尻漁港、岡田漁港、樽井漁港、西鳥取漁港、下荘漁港、深日漁港、とっとパーク小島（釣り公園）、加太漁港
⑩ 水とともに歩んで400年 歴史の転換を担ったみなとまち・伏見	伏見港を核とした伏見地域	三桧閘門資料館、十石舟・三十石船、宇治川流域、心しみなと（伏見みなと公園広場、伏見みなと広場、伏見港公園）、伏見であい橋

※表中の緑色の文字は令和4年度に新たに追加した。

(2) アピールポイント毎の状況

アピールポイントにおける主な親水施設等への訪問状況及びイベントの開催状況は図73のとおりである。

施設の訪問者数及びイベントの開催状況等は、各機関から報告のあったものを示している。



※図中の青枠は訪問状況、赤枠はイベント開催状況である。

図 73 主な親水施設等への訪問状況及びイベントの開催状況

① 潮風かおる港町神戸

- ・須磨海岸では大阪湾生き物一斉調査を実施し、HPでのPRやプレス発表により参加者数は58人で、参加者からの意見として、「3年ぶりの大規模調査でうれしい。」「とても面白くて、大阪湾のイメージが変わった。」等があった。
- ・須磨海水浴場の訪問者数は、HPでのPRにより約8万8千人であった。
- ・須磨海浜水族園の訪問者数はHPやSNS等でのPRにより406,062人で、生き物の展示や環境問題等のプログラムの参加者数は9,343人であった。参加者からは「写真がたくさんあり、視覚で理解できてよかった」等の意見が寄せられた。
- ・兵庫運河では兵庫運河祭が開催され、ポスターやチラシ等でのPRにより参加者数は2千人で、参加者の意見として「老若男女が楽しめるよう工夫されていた。」があった。また、大阪湾生き物一斉調査の参加者数は87人で、「いろいろな生き物がいて、楽しかった。」「たくさんの生き物を知れてよかった。」等の意見が寄せられた。
- ・神戸ポートタワーのリニューアルを契機に、神戸の街とアートを掛け合わせた神戸ウォーターフロントアートプロジェクト等を実施し、HPやSNS等でPRしている。
- ・神戸マラソンの参加者数は20,255人であった。
- ・多様な親水施設を活用したイベントが開催され、多くの訪問者、参加者を得ている。

表 3-2 港町神戸における施設の訪問状況とイベント開催状況

親水施設等	施設毎の訪問者の状況		イベントの開催状況			
	親水施設等名称	訪問者数	親水施設等名称	イベント名称	イベント回数	参加者数
須磨海岸、須磨海水浴場、神戸ポートタワー、神戸空港人工海水池等	須磨海水浴場	約88,000人 (R4)	須磨海岸	大阪湾生き物一斉調査	1回 (R4)	58人 (R4)
	須磨海浜水族園	406,062人 (R4)		須磨ビーチフェスタ※	1回 (R1)	21,000人 (R1)
	須磨ドルフィンコースト※1	22,500人 (R3)	須磨海浜水族園	さまざまな海の生き物の展示、生きもの・自然・環境問題等のプログラム、市内対象オンラインスクール	332回 (R4)	9,343人 (R4)
	神戸ポートタワー※2	38,751人 (R3)				
兵庫運河				兵庫運河祭	1回 (R4)	2,000人 (R4)
				大阪湾生き物一斉調査	1回 (R4)	87人 (R4)
神戸ポートタワー				神戸ウォーターフロントアートプロジェクト、プロジェクトマップ、参加型巨大アートイベント等	未集計 (R4)	未集計 (R4)
ポートアイランド				神戸マラソン	1回 (R4)	20,255人 (R4)
神戸空港人工海水池				ウミガメエコツアーリズム※	1回 (R3)	21人 (R3)

※1. 令和4年度は実施なし
 ※2. 令和4年度はリニューアル工事に伴い営業終了中

※ 令和4年度は実施なし



写真提供：神戸市

図 74 兵庫運河祭



写真提供：神戸市

図 75 神戸ウォーターフロントアートプロジェクト

② 水に親しみ学べる尼崎・西宮の海辺

- ・ 尼崎運河周辺の水質浄化施設では、HPやパンフレット等でのPRにより訪問者数は約1,130人（見込み）であった。環境学習会やフェスティバル等を約30回（見込み）開催し、参加者数は約1,080人（見込み）であった。
- ・ ニロック（尼崎閘門）防災展示室では訪問者数は約800人（見込み）であり、21回実施されたニロック防災展示室公開イベントの参加者数はHP等でのPRにより233人であった。
- ・ 尼崎市立魚釣り公園の訪問者数は31,371人（令和4年9月時点）であった。釣り大会等が5回実施され、イベントはHPやポスターの掲載等により183人が参加した。参加者からの意見として「安心して利用できた。」「魚が良く釣れた。」等があった。
- ・ 甲子園浜海浜公園では大阪湾生き物一斉調査を実施し、参加者数は20人で、参加者からの意見として「海がくさかった。すぐ黒くなった。」があった。
- ・ 尼崎運河周辺の親水施設や防災施設を活用した環境学習会等では多くの参加者を得ていることから、今後もイベントを通して水に親しむとともに防災について知る機会を創出していくことが望ましい。

表 3-3 尼崎・西宮における施設の訪問状況とイベント開催状況

親水施設等	施設毎の訪問者の状況		イベントの開催状況			
	親水施設等名称	訪問者数	親水施設等名称	イベント名称	イベント回数	参加者数
水質浄化施設、ニロック(尼崎閘門)防災展示、県立甲子園浜海浜公園など	尼崎運河周辺水質浄化施設	約1,130人 (R4見込み)	尼崎運河周辺水質浄化施設	環境学習会、オープンキャナルデイ及びオープンキャナルフェスティバル、キャナルフライデー	約30回 (R4見込み)	約1,080人 (R4見込み)
	ニロック(尼崎閘門)防災展示室	約800人 (R4見込み)	ニロック(尼崎閘門)防災展示室	ニロック防災展示室公開	21回 (R4)	233人 (R4)
	尼崎市立魚釣り公園	31,371人 (R4年9月末時点)	尼崎市立魚釣り公園	月間大物賞(毎月)、尼崎市民の日、レディース釣り大会、夏休み子供サビキ釣り大会、稚魚放流、開園記念子供釣り大会	5回 (R4)	183人 (R4)
			県立甲子園浜海浜公園	大阪湾生き物一斉調査	1回 (R4)	20人 (R4)



写真提供：兵庫県

図 76 ニロックの施設見学

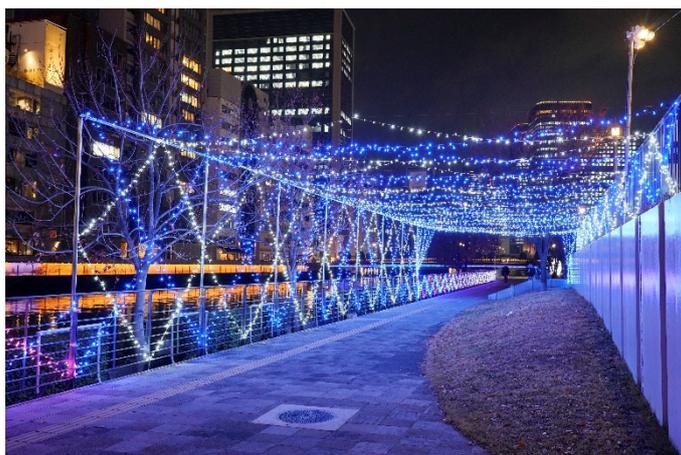
③ まちなかで水に親しめる水都大阪の水辺・海辺

- ・魚つり園護岸は 28,733 人（2 月末時点）の訪問者があった。
- ・大阪マラソンを 2 月 26 日に開催し、一般ランナーも含めて 29,285 人の参加があった。
- ・大阪・光の饗宴 2022 では期間中（令和 4 年 11 月 3 日～令和 5 年 1 月 31 日）に約 2,752 万人の参加があった。
- ・まちなかの水辺・海辺空間を活用したイベント等が開催され、多くの参加者を得ている。今後もこれらを活用して水に親しめる機会を創出していくことが望ましい。

表 3-4 水都大阪における施設の訪問状況とイベント開催状況

親水施設等	施設毎の訪問者の状況		イベントの開催状況			
	親水施設等名称	訪問者数	親水施設名称等	イベント名称	イベント回数	参加者数
中之島公園、人工磯、サンタマリア(周遊船)、野鳥園臨港緑地など	魚つり園護岸	28,733人 (R5年2月末時点)	大阪市内	大阪マラソン	1回 (R4)	29,285人 (R4)
			大阪府域	大阪・光の饗宴	1回 (R4)	約2,752万人 (R4)
			野鳥園臨港緑地	大阪湾生き物一斉調査※	1回 (H30)	30人 (H30)

※ 令和元年～4年度は実施なし



©大阪・光の饗宴実行委員会

図 77 OSAKA 光のルネサンス リバーサイドイルミネーション

④ 豊かな自然と歴史を感じられる琵琶湖

- ・アクア琵琶ではHPやチラシ等での発信により訪問者数は約 1,500 人（見込み）であり、水辺の匠の参加者数は約 500 人（見込み）であった。
- ・琵琶湖博物館ではHPやチラシ等でのPRにより約 59 万人（見込み）の訪問があった。観察会・見学会やわくわく探検隊等を 50 回開催し、参加人数は 1 千人であった。
- ・琵琶湖では外来魚釣り大会が 2 回開催され、HPやSNS等での発信により参加者数は 825 人であった。
- ・琵琶湖周辺の親水施設では琵琶湖・淀川流域の豊かな自然や歴史を学ぶことができるイベントが開催され、多くの訪問者、参加者を得ている。今後もイベント等を開催していくことが望ましい。

表 3-5 琵琶湖における施設の訪問状況とイベント開催状況

親水施設等	施設毎の訪問者の状況		イベントの開催状況			
	親水施設等名称	訪問者数	親水施設名称等	イベント名称	イベント回数	参加者数
アクア琵琶、琵琶湖博物館、水泳場・マリナーなど	アクア琵琶	約1,500人 (R4見込み)	アクア琵琶	水辺の匠	1回 (R4見込み)	約500人 (R4見込み)
	琵琶湖博物館	約590,000人 (R4見込み)	琵琶湖博物館	観察会・見学会、博物館で楽しもう、各種講座 体験教室、わくわく探検隊	50回 (R4)	1,000人 (R4)
			琵琶湖	外来魚釣り大会	2回 (R4)	825人 (R4)



写真提供：滋賀県

図 78 琵琶湖博物館のイベント



写真提供：近畿地方整備局

図 79 アクア琵琶でのイベント

⑤ 市民が参加した川づくりが進む大和川

- ・大安寺河川公園では、大和川一斉清掃と「奈良県山の日・川の日」川の清掃デーが延べ2回開催され、「奈良県山の日・川の日」川の清掃デーの参加者数は516人であった。
- ・清掃活動イベントが開催され、多くの参加者を得ている。今後も清掃活動等により市民参加を促進していくことが望ましい。

表 3-6 大和川におけるイベント開催状況

イベントの開催状況			
親水施設名称等	イベント名称	イベント回数	参加者数
佐保川水辺の楽校 (佐保川小学校前)	小学生による清掃活動、わいわい祭り、水辺のコンサート※1	3回 (R1)	4,700人 (R1)
大安寺河川公園 (大安寺西小学校前)	大和川一斉清掃、「奈良県山の日・川の日」川の清掃デー	2回 (R4)	516人※2 (R4)
佐保せせらぎの里 (奈良市法蓮町)	昭和35年より継続する地域住民による清掃活動※1	1回 (R1)	1,200人 (R1)

※1. 新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2～4年度は中止
 ※2. 「奈良県山の日・川の日」川の清掃デーの参加者数



写真提供：奈良県

図 80 佐保川水辺の楽校：わいわい祭り



写真提供：奈良県

図 81 佐保川水辺の楽校



写真提供：奈良県

図 82 大安寺河川公園：大和川一斉清掃



写真提供：奈良県

図 83 佐保せせらぎの里：佐保川清掃活動

⑥ 海に親しめる多様な場がある堺の海辺

- ・堺浜自然再生ふれあいビーチでは大阪湾生き物一斉調査を実施し、参加者数は43人であった。参加者からは「身近な場所での生き物の多さに驚いた。」等の意見が寄せられた。
- ・堺旧港の史跡旧堺灯台公開イベントの参加者数はHP等でのPRにより250人であった。
- ・堺の海辺では親水施設や史跡を生かしたイベントを開催し、今後も海に親しめる機会を創出していくことが望ましい。

表 3-7 堺の海辺におけるイベント開催状況

イベントの開催状況			
親水施設名称等	イベント名称	イベント回数	参加者数
堺浜自然再生ふれあいビーチ	堺浜ふれあいビーチで遊ぼう！※	1回 (H30)	60人 (H30)
	大阪湾生き物一斉調査	1回 (R4)	43人 (R4)
堺旧港	史跡旧堺灯台公開	1回 (R4)	250人 (R4)

※ 令和4年度は実施なし



写真提供：堺市

図 84 史跡旧堺燈台の公開



写真提供：近畿地方整備局

図 85 堺浜自然再生ふれあいビーチでの
大阪湾生き物一斉調査

⑦ 海の恵みを楽しめる堺・高石の漁港

- ・堺（出島）漁港のとれとれ市は、約 100 回開催され、参加者数は 3 万人であった。ホームページ等を活用してPRを行っている。
- ・今後も海の恵みを楽しめる機会を創出していくことが望ましい。

表 3-8 堺・高石の漁港におけるイベント開催状況

イベントの開催状況			
親水施設名称等	イベント名称	イベント回数	参加者数
堺(出島)漁港	自然体験学習 「堺の海で漁業体験」※	1回 (R1)	18人 (R1)
堺漁港	とれとれ市	約100回 (R4)	30,000人 (R4)

※ 令和元年度で事業終了後、後続事業が新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止



写真提供：大阪府

図 86 堺（出島）漁港のとれとれ市

⑧ 海水浴やマリレジャーが楽しめる阪南・泉南の海岸

- ・二色の浜公園の「TOYOTA ソーシャルフェス!!2022 二色の浜」では63人（現地参加35人、配信視聴28人）が参加し、参加者からは「ゴミについて考えるようになった。」「マイクロプラスチックについて知り、行動を改めようと思った。」等の意見が寄せられた。
- ・せんなん里海公園では、ワカメ収穫祭やシュノーケリング体験等のイベントが開催され、延べ参加者数は1,336人であった。淡輪箱作海岸・磯浜見学会には51人が参加し、参加者から「魚の放流が楽しかった。」「この学習を通じてよりきれいな海にしたい。」等の意見が寄せられた。大阪湾生き物一斉調査には44人が参加し、参加者から「生き物を捕まえることができ感動した。」「いろいろな生き物に出会えてよかった。」等の意見が寄せられた。
- ・親水公園や海浜等の親水施設に多くの方が訪れるとともに、これらの施設を活用した多彩なイベントが開催されている。今後も海水浴やマリレジャーを楽しめる場や機会を創出していくことが望ましい。

表 3-9 阪南・泉南の海岸における施設の訪問状況とイベント開催状況

親水施設等		施設毎の訪問者の状況		イベントの開催状況			
		親水施設等名称	訪問者数	親水施設名称等	イベント名称	イベント回数	参加者数
二色の浜公園、海浜緑地(ジャリ浜)人工磯、箱作海水浴場、せんなん里海公園、淡輪海水浴場など		二色の浜公園※	約640,000人 (R1)	二色の浜公園	TOYOTAソーシャルフェス!!2022 二色の浜※	1回 (R4)	63人 (R4)
		せんなん里海公園※	414,405人 (R1)	せんなん里海公園	アマモ場再生活動	1回 (R4)	10人 (R4)
					みんなでわかめを育てよう (ワカメ植え付け収穫祭)	1回 (R4)	30人 (R4)
					大阪湾シュノーケリング体験	1回 (R4)	50人 (R4)
					海の栄養でお花を咲かせよう	2回 (H29)	20人 (H29)
					みんなでつくる豊かな大阪湾プロジェクト	3回 (R2)	50人 (R2)
					大阪湾クルーズ	1回 (H30)	20人 (H30)
					親子料理教室	1回 (H30)	20人 (H30)
					淡輪箱作海岸・磯浜見学会	1回 (R4)	51人 (R4)
					第21回親子しぜん体験会	1回 (R4)	49人 (R4)
					ウミホタルウォッチング	1回 (R4)	36人 (R4)
					第10回せんなん里海さくらフェス & 大阪湾フォーラムコラボ開催	1回 (R4)	1,000人 (R4)
					海藻おしぼ教室/展示	1回 (R4)	16人 (R4)
					陸ガニの観察会	1回 (R4)	27人 (R4)
					海の小さな怪物チリメンモンスターを探そう!	1回 (R4)	23人 (R4)
					大阪湾生き物一斉調査	1回 (R4)	44人 (R4)

※ 令和4年度の訪問者数データなし

※ 現地参加者：35人、配信視聴者：28人



写真提供：大阪府



写真提供：大阪府

図 87 二色の浜公園でのイベント

⑨ 海の恵みを楽しめる泉南の漁港

- ・とっとパーク小島（釣り公園）ではHP等でのPRにより訪問者数は4,530人であった。
- ・西鳥取漁港では波有手（ぼうで）のカキ小屋が約25回開催され、HP等でのPRにより参加者数は約7,500人であった。
- ・下荘漁港の下荘牡蠣直売は約50回開催され、HP等でのPRにより訪問者数は約1,800人であった。
- ・佐野漁港では泉佐野青空市場が約310回開催され、HP等でのPRにより参加者数は15万人であった。
- ・田尻漁港では日曜朝市が約50回開催され、HP等でのPRにより参加者数は13万人であった。
- ・岡田漁港では泉南ロングパーク内のマルシェエリアが約100回展開され、HP等でのPRにより参加者数は6万人であった。
- ・深日漁港干潟では大阪湾生き物一斉調査が実施され、HPやチラシ等でのPRにより参加者数は23人であった。参加者からは、干潟への親近感や生物観察の面白さに関する意見が寄せられた。また、深日漁港ふれあいフェスタの参加者数は4千人であった。
- ・釣り公園では毎年多くの人々が訪れ、漁港では市場や祭り等を定期的で開催している。今後も海の恵みを楽しめる場や機会を創出していくことが望ましい。

表 3-10 泉南の漁港における施設の訪問状況とイベント開催状況

親水施設等	施設毎の訪問者の状況		イベントの開催状況			
	親水施設等名称	訪問者数	親水施設名称等	イベント名称	イベント回数	参加者数
佐野漁港、田尻漁港、岡田漁港、樽井漁港、西鳥取漁港、下荘漁港、深日漁港、とっとパーク小島（釣り公園）、加太漁港	とっとパーク小島（釣り公園）	4,530人 (R4)	佐野漁港	泉佐野青空市場	約310回 (R4)	150,000人 (R4)
	下荘漁港	約1,800人 (R4)	田尻漁港	日曜朝市	約50回 (R4)	130,000人 (R4)
			岡田漁港	泉南ロングパーク内のマルシェエリア	約100回 (R4)	60,000人 (R4)
			深日漁港干潟	大阪湾生き物一斉調査	1回 (R4)	23人 (R4)
				深日漁港ふれあいフェスタ	1回 (R4)	4,000人 (R4)
			加太漁港	桜鯛祭り※1	1回 (H30)	4,000人 (H30)
				紅葉鯛祭り※2	1回 (R1)	4,000人 (R1)
				屋市※2	9回 (R1)	1,000人 (R1)
			西鳥取漁港	波有手（ぼうで）のカキ小屋	約25回 (R4)	約7,500人 (R4)
			下荘漁港	下荘牡蠣直売※3	約50回 (R4)	—

※1. 新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和元年～4年度は中止

※2. 新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2～4年度は中止

※3. 令和4年度の参加者数データなし



写真提供：大阪府

図 88 日曜朝市



写真提供：和歌山県

図 89 桜鯛祭り

⑩ 水とともに歩いて 400 年 歴史の転換を担ったみなとまち・伏見

- ・三栖閘門資料館の訪問者数は 23,132 人であった。
- ・十石舟・三十石船の訪問者数は 25,035 人であった。また、三十石船特別運航の参加者数は 147 人であり、参加者からは「新鮮な観光を楽しめた。」「盛りだくさんな内容で楽しめた。」等の意見が寄せられた。
- ・宇治川流域では 4 エリアをつなぐ～宇治川(淀川)～E ボート川下り&とっておき体験が開催され、HPやSNS等でのPRにより参加者数は 36 人であった。参加者から「川の流れが気持ちよかった。」「非日常を体験することができて、楽しかった。」等の意見が寄せられた。宇治川派流沿いの夜間景観創出に向けたライトアップ実証実験では、HPやSNS等でのPRにより参加者数は 3,100 人であった。
- ・伏見港の賑わい拠点「ふしみなと（愛称）」において、ふしみなとフェスタで水上アクティビティー等が実施された。また、伏見みなとあかりが延べ3回開催された。
- ・伏見港周辺の水辺空間や親水施設を活用したイベント等が開催され、多くの参加者を得ている。今後もこれらを活用して水に親しめる機会を創出していくことが望ましい。

表 3-11 伏見における施設の訪問状況とイベント開催状況

親水施設等	施設毎の訪問者の状況		イベントの開催状況			
	親水施設等名称	訪問者数	親水施設名称等	イベント名称	イベント回数	参加者数
三栖閘門資料館、十石舟・三十石船、宇治川流域、ふしみなと(伏見みなと公園広場、伏見みなと広場、伏見港公園)、伏見であい橋	三栖閘門資料館	23,132人 (R4)	十石舟・三十石船	三十石船特別運航	1回 (R4)	147人 (R4)
	十石舟・三十石船	25,035人 (R4)	宇治川流域	4エリアをつなぐ～宇治川(淀川)～Eボート川下り&とっておき体験	1回 (R4)	36人 (R4)
		秋の背割堤～伏見クルーズ		1回 (R3)	123人 (R3)	
		桃山語り部の道 桜まつり※1		—	—	
		宇治川派流沿いの夜間景観創出に向けたライトアップ実証実験		1回 (R4)	3,100人 (R4)	
ふしみなと(伏見みなと公園広場、伏見みなと広場、伏見港公園)				ふしみなとフェスタ	1回 (R4)	1,700 (R4)
				伏見みなとあかり※	3回 (R4)	—

※1. 新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和3年～4年度は中止
 ※2. 令和4年度の参加者数データなし



写真提供：京都府

図 90 伏見みなと公園広場



写真提供：京都府

図 91 ふしみなとフェスタ

